明治三十二年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回
明治二十一年三月二十八日内務省許可（廿日發行）

明治四十四年十二月二十日發行

婦人衛生雜誌

第二百六十五號

婦人衛生雜誌

第二百六十五號目次

明治四十五年

新年會

來年一月十四日（第二日曜）午後一時より新年相互の禮を兼ね神田區一ツ橋通り女子職業學校内に於て新年會相催し餘興等も有之候間御知友御同伴御來會相成度希望致候

明治四十四年十二月

私立大日本婦人衞生會

產婆學雜誌

每月一回
十五日發行

會費壹箇年前金壹圓五拾錢

第百參拾參號目次　十一月十五日發行

本誌は日本產婆學協會の機關雜誌にして斯學の斬新なる學說實驗等を揭載するの外每號歐洲各國に於ける斯學の新報中より有力なる學者の報告を拔萃抄錄し尙一般婦人の衛生上に就き注意參考となるべき事柄を平易詳細に記載し文苑欄を設けて當代歌人の淵叢なる常磐會詠草の和歌並びに趣味ある美文紀行文等をも揭げて完全なる產科衛生的婦人雜誌たることを以て目的とせり

芝區三田綱町十一番地
有川產科婦人科院內

發行所　日本產婆學協會

講演

偶感

醫學士　小林八十七

唯今頗る有益なるお話のございました次に出まして申上げまするのは、甚だ嗚呼がましい次第でありまして、又敢て珍らしい事を述べる譯ではありませぬが、唯私が患者を療治して、ちよつと思附きましたことに就て申上げるのであります。今日は婦人衛生會の如き、殊に衛生上の研究をする會合があり、或は新聞なり雜誌なりに就て衛生上のことに就て、盛に問答なり或は話などがありまして、衛生上の知識が一般に廣がつて、私共は却て負ける位の知識を一般の御婦人が持つてお居でになるにも拘らず、一旦御婦人が御病氣に御罹りになつてそれをお治しになるのに時期の後れた爲に、遂に其治療が屆かぬやうなこと、又屆かないとまでは行かなくとも、少し手後れになつたと云ふやうな狀態になることが、往々あることを感じます。

それで、病氣には早く診斷をされて早く治療されたならば、治療し得る病氣は隨分あるのであります。唯今も肺結核に就ていろ／＼お話を伺ひましたが、近頃最新ツベルクリンと云ふものが出來まして、是は肺結核を癒すことが出來るものであると云ふことであります、併ながら日本にはまだ參りませぬので實驗をして見ることが出來ませぬが、是までのツベルクリンはコッホ先生が毒に依つて毒を制する考で肺結核の黴菌から拵へた一種の藥でございます、是は其當時は結核を癒す積りで拵へた物であつたが、實はそれに依つて結核を癒すことは出來なかつた、

さうして段々研究した結果、ツベルクリンは診斷上に之を使用する事が出來る、例へば或一人の患者があつて、其病はどうも何處から來たのか分らない、呼吸器を見ても一向異狀がない、其他消化器を見ても一向變化がない、何處から出る熱であるか分らぬと云ふやうなことがある、或は是は結核が潛んで居るのではないかと云ふ疑からして、それを檢査するのに、ツベルクリンの少しばかりを皮下注射致しますと、何處かに結核が潛んで居る場合には、それが爲に熱を起す、其の熱を起す起さないに依つて、結核が潛んで居るか居らないかと云ふ區別が出來る、さう云ふ風に以前のツベルクリンは診斷上に用ゐる事が出來る、然るに是は可成高い熱が出て苦痛を與へるのみならず、或場合にはそれを注射した爲に、潛んで居る結核の病氣が廣がつて行く傾を起すやうな嫌があつたので、段々研究に研究を積みまして、もつと極く簡單で一向苦痛のないやり方をツベルクリンを用ゐてやるやうになりましたと云ふものは、此ツベルクリンを眼の中にたらします、さうすると何處かに結核が潛んで居る場合には、結膜が充血する、何處にも結核のない人であると此反應を起さない、それに依つて早く診斷をして相當の治療を施せば宜いと云ふことになるのであります、又點眼でなく皮膚の反應と云ふことを見ます、それは矢張りツベルクリンを種痘をやるやうに皮膚へ入れる、さうすると結核のある人であると、其部分が大變に赤くなつて腫れる、ない人であると腫れる事はなく、又此反應が顯れる場合にも殆ど熱を起すやうなこともない、それから針で刺さずに膏藥にして皮膚に附けて見て、反應を起して結核があるかないかと云ふことが分るやうな方法もある、さう云ふ風にして早く診斷を附けて、適當な治療方法を行ひましたならば、結核と雖も悉く治らぬと云ふことはないのでありますから、兎に角早く診斷を受けると云ふことが宜いのであります。

それから幸に若し最新ツベルクリンと云ふものが、

果して結核の特效藥であるならば、是は治療上益々結構なことであると考へるのであります、それに似たもので近頃頻りに流行して居ります六百六號、此席上淑女令孃の前で六百六號の事などを申すのは、甚だ失禮な事とは存じますが暫らく之に就て申上げます、此は黴毒の黴菌から作つたものではなく化學的の方法を以て作りました藥でございます、之を黴毒患者に注射致しまするご其黴毒が治る、黴毒の特效藥であるご云ふので、頻りご今流行して居りますが、此六百六號が發明されたのは、詰り黴菌學的の研究が進みましたのに引續いて化學的治療法の研究の進歩しましたのに依つて出來たものであります、此黴毒の黴菌ご云ふものは長く發見されなかつた、漸く數年前に其黴菌が發見された、今までは矢張り或一種の黴菌から起る病氣であるご云ふことは、略々其病氣の様子に依つて想像されて居つたが、長く其黴菌は分らなかつた、今でも天然痘の如きはまだ黴菌が分らない、併し是は何かの黴菌から起るものであるご云ふことは想像されて居る、天然痘の如きは種痘ご云ふものが發明されて、それで豫防をする事が出來て居る、黴毒も初はどう云ふ黴菌であるか分らなかつたけれども、多分黴菌の作用に依つて起るものであらうご言つて、多數の學者が研究した結果、數年前に黴菌が發見された、それから後研究が積んで、黴毒を有つて居る人の血液を取つて檢査して見るご云ふご、他に症狀が現れて居らない時でも、其人が黴毒を有して居るか居らないかご云ふ診斷が附くやうになつた、能くお產の癖が惡いご云ふ人があつて、折角妊娠しても早くは二月三月、更に臨月に近くなつて流產をする人がある、而もそれが屢々續いて來てどうしても滿足な兒が生めない、折角臨月まで持つて行つて生れても又間もなく死んで仕舞つたりする、又子供が生れても弱くて育たないご云ふやうな人がある、是には種々な原因もありませうが、隨分黴毒に依つて起るものが多いのであります、婦人は自分が知らず識らず黴毒に感染して

居ることがある、之を先の血液を見て診斷する事が出來なかつた時代には、其夫が黴毒を先に煩つた事があると云ふ位のことか、或は唯此人は何回も續けて流產をやつた、どうもおかしいから、黴毒の療法をやつて見やうと云ふので、昔から特效藥と稱されて居る所の水銀の化合物、之を皮膚に擦り附けることか、或は注射するとかして、幸に是まで數回も流產をして居る人が、滿足な兒を生んで嬉しいと云ふやうなことが屢〻あつたのでありますが、是は黴毒が體內に潛んで居つても、其症狀が外に現はれて居ない時には、唯推測でやつた譯である、然るに血液の反應に依つて、潛んで居る黴毒を見出す事が出來るやうになりましてから、今度は唯推測でやらなくても、ちやんと此人は黴毒がある、だからサルバルサン、――六百六號の原名です、或は水銀劑などで治療したならば必ず滿足な兒を生せることが出來ると云ふ見當が、確に附くのであります。

それでは血液を取つて試驗をするのにどれだけの苦痛を人に與へるかと云ふと、是は何でもない話で、血液が僅か二瓦か三瓦もあれば宜しいのである、然らばどう云ふ風にして之をするかと云ふと、肱の內面の所へ、唯普通の皮下注射針を刺して、血管から血液を吸出す、それが二瓦か三瓦もあればそれで宜いのです、それから後の試驗は、隨分手が掛りますが是は醫者の役目で、檢査をされる人の苦痛には少しもならない、さう云ふ譯で甚だ苦痛の少ないものでありますから、若しさう云ふ風な場合があつたならば、早く檢査を受けて適當な治療法を用ゐなければならぬ。

それから尙ほ、私が婦人科の方を專門にやつて居りますので其方の話ばかりですが、御婦人の最も怖れます子宮に出來ます癌、此癌腫と云ふものは何處に出來ても捨てゝ置けば必ず生命に關するものであります、此癌腫にしても早く診斷を受けて早く治療を施せば必ず治るべきものである、子宮癌は其徵候が既に現れて居つても、極りが惡いと云ふのが第一の

苦痛で、それから手術をしなければならぬと云ふのが第二の苦痛である、爲につい〳〵診察を受けるのが遲くなる、此癌は唯今に於きましては手術をして取るより外に方法はない、唯今動物試驗では或程度迄は免疫質を與へることが出來ると云ふ實驗は出來て居りますけれども、まだ人間に於ては是は出來ない、どうしても手術をしなければならない、それで遂極りが惡いとか、手術が怖しいとか云ふ考からして、兎角時機を失して醫者の所へ來られる、のつぴきならぬやうな場合になつて來られるから手術も自然むづかしいやうになる事がある、故に兎に角早く診斷を受けると云ふことが必要である、それにはどうするかと云ふと、極く少し、或は單に疑はしいと云ふやうな徵候を認められましたならば、成るべく早く醫者の所へ御居でになる、醫者はどうして診斷をするかと云ふと、怪しいと思はれる分を極く少し取つて見る、外に現れて居るのは、其處をちよつとばかり鋏んで取つて見るとか、或は内膜の部分のは極く細い器械を入れて其一部分を取つて見る、是は別に麻藥をかける必要もない、痛いと言つても極く僅かなものである、それで取つたものを顯微鏡で調べて見る、さうすると癌には特別の組織がありますので、直ちに診斷が來出ます、其診斷が附いたならば、必ず是は取つて仕舞はないと段々に廣がり、遂に危險を及ぼすやうになります、之を早く取りさへすれば、決して治らないと云ふやうな病氣ではない、胃癌とか腸癌とか云ふものは甚だ手術をするにもやり惡い、子宮癌は取るのに取り易い、故に手術は恐ろしいやうなものでありますけれども、取つて全治することが出來るのであります、されば成べく早く診斷を附けて取ると云ふことが必要である、先程申されました結核にしても子宮の結核はちよつと子宮癌に似たやうな徵候があります、是も組織の一部分を取つて顯微鏡で見ると其特種の組織がありますので診斷が出來る、それに依つて早く治療を施せば、矢張り子宮の結核を捨て仕舞ふことが出來る。

以上申しますやうに病氣には早く診斷を附ける方法がある、それで早く診斷をするのにどれだけの苦痛があるかと云へば、さう大した苦痛はないのであります、若し疑はしいと思はれるやうな場合には、生命に關することでありますから、恥かしい、極りが惡いと云ふやうなことを考へずに、成べく早く診斷をお受けになると云ふことが必要である、私共が御病人を扱ひます上に於て、兎角それがさう行きませぬで、手の附けられないやうになつてから後に治療をお受けになる御方が屢々あります、是は衞生思想が十分に發達して居りましても、兎角其自衞の途を講せられる時機を得ることがむづかしいからだと思はれます、其時機を失はない樣にして天命を完ふせらるゝ事が望ましいのであります、其事に就て感じましたからちよつと申上げて置きます。

叢談

冬の衞生

我邦の如き溫帶地方でも、冬になると寒い、霜を置き雪を降らす程に寒くなります。人の身體は、夏は夏、冬は冬で、それ〴〵外界の溫度に適應して寒暑の害を避けるやうに巧妙な働を致しますが、甚しく暑くなり、甚しく寒くなれば、自體自身の機能だけでは十分に調節することが出來かねますから、どうしても人工的にこれを補はなければなりません。即ち夏は團扇を使ひ、冬は炬燵に這入ると云ふやうなことになります。然し本々人の身體は自然に外界溫度の變化に順應して、程餘の所までは赤裸で堪へ得る仕掛になつて居るのでありますから、何人もそれだけの健康は保つやうにしなければなりません、そ

の上で土地氣候の變化、食物、勞働等の如何に依て起る所の身に餘る烈しい變化を人工的に調節して害を免れる、これが養生法の本意であらうと思はれます。格別暑くもないのに扇風器を用ひたり、アイスクリームを食べたり、左程寒くもないのに襟卷をしたり、熱燗の酒を引掛けたりすることは、決して養生にはならぬ、却て身體自然の働を妨げて宜敷ない筈であります。殊に寒い方は暑いよりも凌ぎ易い、と云ふと、否暑いのは左程でもないが、寒いのは實にこたへると云ふ人も尠くないが、獅子や象や虎の如き熱帶產の動物は上野の動物園でも頗る御機嫌であるが、白熊の如き極北の動物になると、少し溫い所に來ても弱りがちである、これを以て見ても、寒い方が凌ぎ易いと云はなければならぬ。然し何程健康な人でも冬になつて尙ほ裸でも居られませんから、相當の防寒法を講ずる必要がある、特に老人小兒又は病人に至ては頗る大切な事柄でありまして、就中老人の死亡は冬期に最も多く、小兒の死亡數が夏期に多いのと正反對であるから、餘程注意すべきことであります。

先づ第一に寒いのが嫌ならば、交通便利の世の中になつて來て居るから、冬の間は臺灣、沖繩、一歩進んで印度、亞弗利加邊へでも轉地すれば宜しいが、それは餘り大袈裟と云ふならば、直近所の海邊でも餘程暖い、槪して海邊の溫度は變化が尠く、夏は、陸よりも海の方が徐々に暖められるから割合に涼しく、冬は海の方が陸よりも永く溫度を保つと云ふことから割合に暖いものである。それも贅澤で煩はしいと云へば、いよ〳〵人工的に適度の氣候を作らなければならぬことになるのであります。

人工的に氣候を作るのには、先づ二つの方法があります、第一には衣服を重ねて、皮膚と衣服との間に適當の氣候を作ること、第二には室を暖めて身體周圍に適當の氣候を作ることであります。

衣服を身體に纏ふて、皮膚の周圍に適當に氣溫を作るに就ては、鳥や獸の羽毛を應用するは便利な考で

未だ開けぬ時代に於きましては、獸の皮を丸剝にして、その毛皮を直に吾身に纏ふのが何よりの上策であつたに違ひありません。エスキモ人の服裝などを見ますと、一寸熊か人か分からぬやうな風でありまして、北海道に殘つて居るアイヌなども大に毛皮の著物を珍重致しますが、今日外套の襟や袖口に裝飾的に贅澤な毛皮を附けるのも、一つはこの野蠻時代の遺風かも知れません。兎に角毛皮の著物は今日に於ても矢張最も暖い着物に相違ありません。毛は元來熱を傳導しないのに、これが密生して居れば、其間に澤山空氣を含む、尙ほ皮は外から寒風の侵入するのを防ぎますから他の種類の衣服よりは餘程暖かい譯であります。且つ比較的重量も輕く、濕氣を引くこともなく、皮は空氣を通さないけれども、身體に密著しないから、その內側の方で上下に空氣が拔けるので、換氣の障碍も無い、頗る衞生的の防寒服でありまして、寒地の旅行者、又露西亞邊の、殊に運動を餘りせぬ馭者とか、門番などには是非缺くべからざる最上の防寒服であります。然し何人も一般に用うるには供給が足らず、又多少身動きに不便であり、且體裁上から云ふても、餘り格好の良い仕立は出來ませんから、通常の着物とはならぬのであります。

それで普通は、木綿、絹、毛織物等を材料にして衣服を作りますが、矢張地が厚く、空氣を多く含み、熱の傳導が鈍く、能く溫の放散を防ぐ所の毛織物が一番暖かい譯であります。然し假令地質が薄い物でも、幾枚もこれを重ねて著れば、その一枚每に溫の放散を妨げ、各層の間の空氣も溫まりますから、矢張能く寒さを防ぐことが出來る、日本服の重著及び綿入と云ふものも皆この理に基いて居るのであります。

右の溫を保つべき種々の方法を利用して、衣服だけで以て十度內外の溫度を左右することが出來るのでありますから、老人や小兒に取ては、衣服の如何は衞生上なか〳〵重大なる關係を持て居るのでありま

す。然しこれには習慣もあり、經濟上の關係もありて、なか〳〵一概に孰れの織物が最も善いと云ふことは申されませんが、只冬はなるべく暖かに、なるべく重量のかゝらぬものが良い、又濕氣を帶びたり、濡れたりしたものは、大に害があり、尙ほ下著に垢が附いて不潔になれば、暖くないばかりでなく害になると云ふ位が、先づ衞生上の注意と申すものでありませうか。

次に室内を暖めて、適當の氣候を作る法、卽ち暖室法に就て少しくお話を致します、暖室法は、家屋の構造、又その國の寒暖に由ても異りますが、我邦從來の暖室法は、農家では所謂圍爐裏に薪を焚き、通常の家では火鉢に炭火を置いて暖を採るに過ぎません、これは暖室法としては、最も拙劣な、最も不經濟な、最も幼稚な太古の方法で、寧ろ暖室と云ふ考へまでには至て居らぬ、一人か二人の人間がこれに囓り附いて、僅かに手尖や顏をあぶる位のことに過ぎない。ある人々は、これを辯護して、凡て物は必要に應じて發達するのであつて、我邦の如き氣候の良い溫帶地方に於て暖室法などの發達しないのは當然のことで、つまり不必要であるからのことである、露西亞や朝鮮の如く暖爐が發達して居るからと云ふて別に文明國と云ふ譯ではない、況や火鉢はストーブなどの如く無闇に室を熱くすることなく、ホンノリと暖まるので至極衞生的で、且簡便で宜敷いと云はれますが、これは矢張四疊半か、漸く八疊間位の隱居室に適當であると云ふ說で、堂々たる學校、官衙、ホテルと云ふやうな文明的設備を要する所には間に合はぬ、且つ完全にすれば火鉢よりも衞生的な暖室法が幾らもあるから、徒らに負惜みを云ふにも當らぬ、行燈が洋燈になり、洋燈が瓦斯燈、電氣燈になつたやうに、火鉢などは先づ煙草盆代に止めて、一般の家庭にも室内に寒暖計を備附けて適宜に室溫の調節が出來るやうにしたいものであります。尤もこれには家屋の構造から改めなければなりませんが、實際我邦の冬の室内は、決して快い氣溫を保つ

ては居りません、慥に自然の氣候を矯正して居りません、寒氣に蹂躙されて居ります、夏は寧ろ涼しくすることが困難であるけれども、冬は如何程寒風外に吹荒むも、室内には常に春を貯ることを敢て難くはないのであります、若しこの暖室法さへ完全に行くならば、家庭に於ける冬の仕事は實に樂しいものである、と申した所で今日の所何れの家にも完全なる暖室法を希望する譯にも參りませんから、それは理想として、兎に角通常の衣服を著て熱からず寒からず快き氣溫を得るには、攝氏の十七八度乃至二十度の室溫が必要である。最も寢室はこれよりも低く十五六度、又身體の運動をする體操室とか、工場とかも十二三度から十六七度の間とし、尚ほ小兒老人の居室、病室等に依て各多少の加減を要するのであります。斯く室を暖むるのには、蒸氣、湯、或は瓦斯を通ずる所の鐵管を室内に導いて暖める法がある、所謂中央暖室裝置で、一つの場所で蒸氣、湯又は瓦斯を熱して、其溫を管に依て房々に分配するのでありまして、これは大仕掛けであるから官署とか學校とか旅館とか云ふ處でなければ行はれませんが、手數も掛らず、室内の空氣を不潔にする憂もなく、且つ平等に暖めることが出來るのであります。普通の家庭に於ける暖室法としては、所謂ストーブを用ゆるが常でありまして、これにも開爐と閉爐とがあり、又改良に改良を經て種々のものが出來て參りましたが、要するに、最も費用が少なくして、最も多くの溫を作り、且つ瓦斯、煤烟、塵埃等の室内空氣を汚すことが最も少なく、室全體をなるべく平等に暖め得ると云ふことが理想であります。それで衞生上から云へば水蒸氣を鐵管に通じて室内に導くのが一番宜敷いが、一個人の家には應用し難いから先づ瓦斯暖爐が最も良いとしなければならぬ、然し經濟の上から云ふと石炭か薪を焚いた方が、幾らか費用が少いかも知れぬ、然し炭酸や酸化炭素瓦斯を室内に漏らし、塵埃を立てることが多くなる。何れにしても一得一失はあるが、炭酸、殊に酸化炭素瓦斯の如き有

毒なるものを室內に漏らし、煙を出すやうなものは、費用がかゝらぬからと云ふて衛生上我慢は出來ません、それで暖爐を用ゆるには是非煙突を附けて、燃燒產物を室外に導き、風や濕度の具合で逆に室內に吹込むやうな事のないやうに注意することが必要であります。

次には再び日本從來の暖室法に就て、衛生上より批評を試みなければなりません。前にも云ふ通り、圍爐裏とか、炬燵とか、火鉢とか云ふやうなものは、元來暖室の目的に出來て居るのではない、一人か二人の人が、自分だけの身體、而かも僅かに手や足の一局部を直接に溫める爲めのものであつて、寒がりの人は、所謂火ダコなど〻稱するものを生ずるに至る、これを以て室全體を快く暖めることは、迚も六ケしい話で、強ひて火鉢の數を增し、炭を增して暖かくしやうとすれば、後に述ぶる如き種々の恐るべき害毒を招くやうになる。兎に角暖室法としては最劣等の裝置と云ふてよからうと思ふ。然し初から暖室裝置ではないと云へば、これを暖室法として批評するのは間違かも知らぬが、單に手あぶり道具、足あぶり裝置として、衛生上火鉢や炬燵の價値を知ることは時節柄必要のことであらうと思はれます。

先づ取得を云へば、火鉢は無いよりは暖い、且簡單で御客があれば直ぐ火を取て出す、何の室へでも自由に持運びが出來る、これが火鉢、卽ち火入鉢の火入鉢たる所であつて、尙ほこれに鐵脚子を置いて鐵瓶を掛け、チン〳〵と湯氣をたぎらするなどは、最も得意とする所であらうと思ひます。前にストーブの所で言ひ漏しましたが、ストーブを焚く時に、その燃燒產物を悉く室外に導き出すことは無論でありますが、尙ほストーブの上に水を入れた金盥の如きものを置いて、常に少しづ〻湯氣を立たせることは頗る肝要なことであります。室內の空氣が乾燥し過ると咽喉を惡く致します。火鉢に鐵瓶を掛けて置くと云ふことは經濟上のみならず、此點から見て結構なことであると思ふ。

然しその缺點、殊に最も不快なる衛生上の害を見逃す譯には參りません。先づ火鉢の如く、その燃焼産物を室外に導く裝置のない所謂開放火は、その炭より生ずる所の種々の瓦斯、蒸氣、煤煙などを悉く室内に吐出すのでありますから、眼にこそ見えね、その空氣を不潔にすることは夥しいものであります。特にその中でも炭酸と酸化炭素とが有害なものであります。

通常室内空氣の善惡を調べますには、その中に含むで居る炭酸の量を標準にするのでありまして、空氣一萬分の中に炭酸の量七位まで含むで居るのは上等の方で、千分の一を越えては既に不良の方に屬します、尙ほ炭酸瓦斯が多くなつて、空氣百の中に一以上の炭酸を含むやうになりますと、頭痛、眩暈、呼吸困難と云ふ如き種々の症狀が起つて遂に氣を失ふに至り、更に量が多くなれば忽ち死んでしまいます。炭や薪を焚く時に生ずる瓦斯の中で、右の炭酸よりも更に一層毒になるものがあります、それは酸化炭素と云ふものであつて、これを吸込みますと、血液の成分、就中赤血球に大變化を起しまして、矢張炭酸瓦斯の中毒と同じやうな症狀を呈し、人事不省、痙攣、麻痺等を起して死亡致します。

この事に關して緒方博士の調べられました試驗中の一例に就て見ますと、日本家屋の八疊間で、障子を締め、戸を開け放した處で、炭火を入れる前の室内溫度が十六度八分、氣壓が百五十八ミリメートル、炭酸の含量が一萬分の五・六であつたが、火鉢二個に炭火を入れて一時間經つてから檢べて見ると、溫度が二十一度五分、炭酸の含量が千分の三・三に增加して居つたと云ふ成績が擧がつて居ります、尙ほ種々の試驗を行はれました所に據て見ますと、炭火からは前に申した酸化炭素も發生するのでありまして、兎に角炭酸は非常に多くなります。これは日本座敷であるから西洋室に比すれば遙に空氣の流通が良いのであります、それで右の程度でありますから、これが皆硝子窓になつて居る少しも風の通さな

い室であつたならば、まだ〳〵不良の狀況を呈する譯であります。

次に同博士が、炬燵内の空氣を檢する爲にアンカに炭火を入れて蒲團をかけて置き、一定の方法を以てこれを測られました所が、第一回の試驗では、炭酸が百分の三、酸化炭素が一萬分の一・二、第二回の試驗では、炭酸が百分の三・七、酸化炭素が一萬分の一・二含まれて居ることが分つたと云ふことであります。これで見ますと、炭酸の量は勿論中毒を起すに足り、酸化炭素の量も中毒を起し得る量に達して居ります。酸化炭素は十萬分の七・八を含むで居つても既に息苦しく感ずる程の劇毒瓦斯でありますから、一萬分の一・二も含むで居れば無論中毒症狀を起して參ります。斯樣な空氣の内に南京鼠を入て見ると、僅かに五分か十分間で斃てしまふと云ふことであります。炬燵の内には斯の如く恐るべき瓦斯が發生するのでありますから、往々田舍の老人などが炬燵中毒を起すのも無理はありません。

火鉢、炬燵の取調は概略右の通りとして見ますると、幾ら國粹保存が結構でも、衛生上迚も感服の出來ない取扱法と謂はなければなりません。椽の下は吹通して、窓は紙張で、空氣の流通が頗る良いなどと云ふた所で、矢張右の有害程度に室内空氣が不潔になる、況や戸を締めて、石油ランプをつけて、數人の人が長時間閉籠る、或は一晝夜その中に起臥するとすれば、餘程不良の空氣となるに相違ない。實際カルタ會とか何とか云ふ時に、斯樣な坐敷に遊んで居て、やがて戸外に出ると、急に呼吸が樂になつて、氣分の甚爽快なるを覺ゆるのは、全く右の不良空氣より、良空氣中に逃れた時の感じであります。此の如く厭なものではあるが、これも急に全廢することは出來ないとすれば、せめては其害をなるべく少なくするやうに心掛なければなりますまい。それには、火鉢及炬燵の炭は一旦眞赤に起したもののみを用ひ、黑い炭を添へて坐敷に置かざること、炬燵は一時間に一度は蒲團を捲くること、尚は時々戸障

子を開いて空氣を換ふることに注意しなければなりません。黒い炭でも煙草盆などに櫻炭をいける時のやうに、上の方から漸次下の方に燃えて行くのは、まだ良いが、赤く起つて居る火の上に黒い炭をついで青い色の焔を立てるのは極めて宜敷くない、前に述べた酸化炭素を一時に澤山吐出すからであります。

著物と室の話が餘り冗長に亙つてしまひまして、餘裕が無くなりましたから、食物の話は別に題を改めてお話することゝ致しまして、只極簡單に冬の食事の注意を申上げて置きます。

第一に寒い時は、暖い時よりも多量に食物を採取なければなりません。これは學問上から説明するまでもなく、寒くなると自然に食が進む、つまり體温を多く奪はれるから、盛にこれを補はなければならぬ、それには食物を澤山輸入しなければならぬと云ふ譯であります。それでありますから、暖い衣服を著て、暖かい室に居れば、格別餘計に食物を取らずして濟みます、著物をストーブに費用を増せば食物の方は儉約になる、これ皆身體の作る温熱の問題で有ます

その食物の種類も特別に蛋白が幾ら、脂肪が幾何と計算するに及ばぬ、何でも構はぬ、薯でも豚でも、鮪でも時節の供するものを盛に食するが良い、自然はその時に従て適切なものを供給して呉れる、又吾吾の嗜好も其時節に従つて身體に適當なものを選むやうになるから、特に心配するには及びません、畢竟身體の内で能く燃えさへすれば良いのである、石炭を焚かうが薪を焚かうが、木葉を燃さうが、竈を沸かすには何でも構はぬ、熱さへ出せばそれで宜しいのである。

活物は水で包んで火で動く
薪を食ふて腹は竈　（一休）

冬は一體に身體がしつかりして、消化機能も振ひ、尚ほ食物の變敗することも少ないから、多量の食餌に堪へ、お腹を悪くすると云ふことも稀であります。冬は脂肪の多いものを食べるが良いと云ふ人もあり

ますが、特別に脂肪を多く取らなければならぬ理由も無いやうである、併し夏よりも能く脂肪に堪へ、又實際脂肪に富んだものがうまいから無論食べて差支ない、殊に肝油などを用ひようと云ふには、冬期に限るのであります。鳥獸の脂附くのも此時節であるから、肥り度い人は澤山食物を食べ、脂肪も餘計に取つて身體の中に脂を蓄へる工夫をなされたらば宜敷からうと思ひます。

但しこゝに一つ注意すべきことは、冬は日が短いので、朝は寒いに由て九時に起き、夜は早く日が暮れるに由て四時頃に、夕飯をかたづけて仕舞ふと云ふやうになる、そうすると僅かに八九時間の中に二回も食事をして一晝夜の三分の二は全く空腹に過すと云ふ如き不平均を來し、或は寢際になつて蕎麥を五六杯を食べると云ふやうなことになり易いのであります。これは矢張食事と食事の間を五、六時間つゝ隔てるやうにして、日脚や點燈の都合に由て衞生上の規則を亂さぬやうに致し度いものであります。さうで無いとわざ／＼お腹をこわすことになります又いくら寒いからと云ふて、妄に熱い物を飲むだり食べたりすることは慎まなければなりません。齒の爲にも、咽喉の爲にも、胃の爲にも害がある。一體斯様な熱の直輸入は效の少ないもので、どうしても普通の食物を取つて、これから身體の内で製造した所の熱でなければほんとうでありません。熱燗で牛鍋などゝ稱するは如何にも溫さうで、又實際身體も溫まるに相違ないが、これは寧ろ口や胃の粘膜が熱いので、唐辛を食べると同様の效能があります。然し此等の溫まり方は餘り感服が出來ない、往々これが爲に害を招くことがあります。尋常の食物を十分に攝取して、普通に働くのが、つまり最も良い方法なのであります。

歌聲の諸病（承前）

醫學士　細谷雄太

發聲器

人間の發聲器は、これを一種の樂器、例へばハアモニカに比較することが出來ます、卽ち肺臟は氣鞴、氣管は風管に匹敵し、聲帶は振舌の如く、咽頭、口腔及び鼻腔は共鳴器となるのであります。併し翻つて全身との關係を考へれば、これとは全く異り、生命を保續するに就て大切なる機能があるのであります、卽ち一方には呼吸機能ありて酸素を取りて炭酸瓦斯を捨て、一方には嚥下作用ありて、食物を攝取して嚥込ことの出來る食物の形として、これを嚥下するのである。是に由て之を觀れば、發聲機能卽ち聽器に反應しては歌謠或は談話となるが、全身關係より云へば、是總て一種の副作用たるに過ないのであります。

この發聲器の解剖學上に亙る空間、卽ち口腔、咽頭、喉頭、鼻腔、氣管と云ふやうな處に就て知らうと思ふには單に解剖の記載、或は圖譜などに由るだけでは六ケ敷い、歌謠若しくは言語の學說を了解せんには、是非、形成的解剖標本、卽ち模型に據らなければならぬのであります。

發聲器の氣鞴たるものは肺臟でありますが、肺臟は肋骨より圍繞まるゝ所の胸腔の中にありまして、其內に心臟を包擁いて居ります。この肺臟を解剖致しますと、先づ左右の二葉に分かたれます、而してその各葉は更に小葉となり、小葉は亦無數の氣胞より構成せられ、此等の各氣胞よりは小管が通じて居る、小管は小管と合して稍や大なる管となること宛然河流のそれの如くであります。何れも是は小氣管枝のことでありますが、小氣管枝は更に集まりて左右二幹の氣管枝となり、氣管枝は遂に氣管となる、この氣管こそは發聲器氣鞴の風管たるものであります。吸入するや空氣氣胞に滿ち、呼出するや空虛となる、然し全然空虛となるのではない、深呼吸にて呼出し

ても猶は肺臟には空氣が逃るものであります。肺臟は、その造構及び彈力を譬ふれば、先づゴム綿に匹敵すべきものである。その形は圓錐形を成して居つて、尖端は鈍くして上に向き、基底は下に向て居る。その表面は悉く胸槽の内面に接して其間に空氣とてはなく所謂眞空である。且つ兩者互に脣齒の如く相摩することあり。

氣鞴としての肺臟の運動は、呼吸に際して、胸槽及び腹部が擧上し、又下垂するのでお分かりになりませうが、この呼吸に伴ふ肺の運動は、肺臟自家の彈力と、胸槽の骨、軟骨、靭帶及び筋肉に由りて起るものであります。而して筋肉を別てば、吸筋と呼筋とに區別することが出來ます。此等の諸筋は、肋骨、鎖骨及び胸骨と連絡して居るもので、その筋力に由りて肋骨を擧上すれば胸廓が擴大し、之に反して垂下するときは狹隘となる。腹筋も亦た運動に關與するもので、就中呼筋として働くのであります、即ち横隔膜が緊張すれば、腹筋は上方へ作用して肺を壓縮するやうになります。

右諸筋の運動は、通常の淺い呼吸にては無意識に起るのでありますけれども、歌謠若しくは談話になりますと、之に反して有意識の運動であつて然かもその運動の範圍が大きい、是に由て之を觀れば、肺は呼吸器ではあるが、發聲器としては氣鞴であつて、筋肉の運動がその主眼となつて居るのであります。

歌謠に際しては、氣鞴の任務が二つある。

一、十分に充滿せしめ、聲帶の吹叭には強力なる大氣流を生ぜしむるに在り。

二、吹叭は安靜にして不偏なるべく、喉頭の位地を變ずることなくして歌聲の安靜平等なるを目的とすべし。

フランケン呼吸或は鎖骨呼吸（肩息）と云ふが如きは、氣鞴の上部のみ擴がるもので呼吸は至て淺く、喉頭の安靜緩和なる位地を變ずるものであります。歌謠に際して最も良く要求を充たすものは横隔膜呼吸であつて、此時に氣鞴の擴大するのは、專ら横隔

膜の緊張に由りて下方へ擴大するのであります。この呼吸の型は、外部より見るときは、腹部の上の所が僅に隆起して、呼出すれば、その部分が陷入する、就中腹壓が呼吸筋の作用を補助する場合には最も顯著に現はれるものであります。

此の如き呼吸の型は歌謠には最も適切なるもので、又これを男性呼吸型とも申します、蓋し男子に特異なる呼吸の型であるからであります、然し諸多の生理學者の說に由れば、女性にも亦同樣の音聲あること天賦にして殆ど先天的なりと申して居ります。而して一旦妊娠致しまするど男性呼吸型が妨げられて玆に初めて變化を來すのである。又この女性呼吸型が女性の子孫に遺傳すると云ふものは、ダアウイン氏の所謂適應の理法に由るのでありませう。

男が呼吸する所を見ますと、呼吸時には肋骨が毫も運動せず、上腹部は橫隔膜の垂下に由て前方へ膨れ出すのであります。女は之に反して、安靜の呼吸時には、肋骨運動著しく、上腹部の膨出することは極めて微弱である、要するに膨大することの最も甚しいのは乳房の上の部分であります。此の如き呼吸の型を、男性の腹式呼吸型に對して鎖骨式呼吸型と云ふのである。此の男性及び女性の呼吸型は、生理的にこれを區別することが出來るのでありますけれども、女性とても練習の效を積めば、人工的に腹式呼吸型に近い呼吸を營むことが出來るものであります、況や婦人の鎖骨式淺呼吸は普通女禮服裝に由りて人工的に緊めつけられると云ふことが一大原因になつて居るのでありますから服裝を改良して、胸の下の緊約することを罷め、彼のコルセットの如きも廢するやうにしたならば、男女兩性の呼吸の型は、段々相近づき、その差異は一掃せらるゝに至るでありませう、勿論これは橫隔膜呼吸が毫も妨げられざるものとしての話であります。

男性呼吸型が聲樂家に利益なるは、橫隔膜呼吸を用らる爲のみならず、同時に腹筋の律的收縮ありて血行を助け、また消費したる肺の空氣を交換せしめて、

呼吸本來の目的を逹する等、いづれもこれに關係して來るのであります。又横隔膜呼吸は孤獨に營まるゝものでなく、同時に其他の呼吸筋も運動する、肋骨舉筋及び鎖骨舉筋と云ふ如きものであります、然しフランケン呼吸の如く著しいものは他に見ることは出來ません。故に聲樂家の横隔膜呼吸は所謂混合呼吸型であつて、詳しくは胸腹型と云ふべきものである。又兩性の差異を示す所の胸廓中央の直徑は、恰も胸上部に於て最も著しく、之に反して氣肺の變化の大なるは、横隔膜の垂下に因るものであります。

（以下次號）

扁桃腺の話（承前）

醫學士　神尾友修

口蓋扁桃腺肥大症

も亦「アデノイド」と同じ種類の病氣でありまして、「アデノイド」に罹つて居る小兒は大抵口蓋扁桃腺肥大症をもつて居ります、また、口蓋扁桃腺の大きい樣な小兒は多く腺樣增殖症に罹つて居ります、此れは兩方共に同じ種類の原因より起るからであります。

此の口蓋扁桃腺の大きくなる病氣は、通常單に扁桃腺肥大と申して居ります、廣い意味で扁桃腺肥大と申しますれば、「アデノイド」症も、舌根扁桃腺の大きくなる病氣も、含まれて居りますが、通常扁桃腺肥大と申しますれば、口蓋扁桃腺肥大の事であります。

此の口蓋扁桃腺の肥大は、口さへ開けば直ぐ見えるものでありますから、誰れにでも容易に見る事が出來ます、卽ち口の奧の所で、左右から丁度胡桃か或は桃の種子の樣な瘤が突出して居りましたなら、それは大きくなつた扁桃腺であります、此れが大きなものは、杏の大きさか或はもつと大きなものになりまして、甚しいものになりますれば、咽頭を全く塞ぎまして食物を嚥み下す事が困難となります。

此病氣も主として小供に多いものでありますが、併し「アデノイド」症よりも年長のものに多いものであります。

「アデノイド」症は十五歳未滿の者に最も多く、二十歳前後の青年にはあまり御座いませんが、口蓋扁桃腺肥大症は二十歳前後の青年者にも澤山御座います。そして、これがあります時は時々、感冒や、咽頭カタル等の病氣に罹り易いものでありますから、二十歳前後の人が度々感冒に罹り、其の都度咽頭が痛むと申しましたら、多くは扁桃腺肥大症をもつて居ります、斯樣な人は、扁桃腺を十分に治療したならば咽頭の痛みを起す事が著しく稀れとなります。

前に「アデノイド」の時に申しましたと同じ樣に、口蓋扁桃腺肥大症でも、扁桃腺が病氣になつて居る以上は、種々の病毒は此の關門を通りまして、無事に體內に浸入致しまして、種々の病氣を起します、「レウマチス」とか、肺炎とか、其外心臟病、盲腸炎、肋膜炎、腦膜炎なども扁桃腺肥大が原因となる事が御座います、大海の水も一滴より始まると申しますが、誠の事で、此等の恐るべき病氣も、元はといへば單に口蓋扁桃腺が少し大きくなつて居た爲めである事が御座います、注意せねばなりません。

口蓋扁桃腺肥大は、概して「アデノイド」症程の大害を與ふるものではありません、殊に輕度のものでは唯だ感冒、咽頭「カタール」其他種々の病氣を起し易い樣にする丈けであります、併し高度のものになりますれば、呼吸も妨げられ、飮食さへ十分に出來なくなり、睡眠中鼾聲を發し、音聲は鼻聲となる等種種の障碍を醸します。

或る音樂の生徒は近來何故か高調の音が出なくなつたと申して參りました、診察の結果一方の口蓋扁桃腺が少しく大きくなつて居る外は、何所にも故障のない事がわかりました、そこで其の輕度に肥大した扁桃腺を切除致しましたら、數日の後高調の音が出來る樣になりました。斯樣な例は決して少くありません。

扁桃腺肥大症の爲めに咳嗽が出る事があります、兒童の內部には何所にも異狀がなくて、每日々々咳嗽が出て、人からは肺病の初めでもあるだらうなど疑はれる事があります、斯樣な患者にも、扁桃腺を療治すれば全治するものであります、私は十三歲の子供で、一年此方咳嗽が出て、種々の藥を用ゐても癒らなかつた患者を診察しまして、胸にも何所にも何もなく、唯だ兩方の口蓋扁桃腺が拇指の尖程に大きくなつて居るのを見ました。此れは手術した後十日計りの間に、全治してしまいました。此外にも、咳嗽が出るから肺でも惡るいのぢやなかろうかと申して參ります患者にて、扁桃腺を切つた丈けで忘れた樣に癒つてしまう事は度々有ります。

又喘息が、扁桃腺肥大の爲めに起る事があります、御存じでも御座いませうが、喘息と申します病氣は非常に苦しい病氣で、しかも非常に癒り惡い病氣であります。患者、患者の一家族は勿論の事醫者でさへもてあまして居るのであります、然るに近頃鼻性喘息と申しますものが發見されまして、鼻の病氣が喘息の原因となり、其所を刺戟すると喘息が起る事などがわかりました、斯の種類の喘息には鼻を療治すると喘息が根治さるゝのであります、併し喘息といふ病氣は悉く鼻から來るものであるとは申されません、鼻に病氣がない喘息も澤山あります、斯樣な患者は鼻を療治しても、何にもなりません、中には扁桃腺を切つた後に、或は「アデノイド」を取つてから喘息が全治した事もあります、私の知つて居る或る患者は、十五歲の子供で喘息で苦しんで居りましたが、鼻には何にもありませんで、唯だ口蓋扁桃腺が少し大きくなつて居りました、所が此の患者は扁桃腺を切つてから一年以上になりますが、まだ一度も喘息を起しません。

口蓋扁桃腺が大きくなつて居りますれば、喘息といふのとは少し違いまして、呼吸が苦しくなる事があります、殊に夜間睡眠中呼吸が苦しくなりまして、患者は完全に睡る事が出來なくなり、側から見て居

りますと、高い鼾聲が出るばかりでなく、時には窒息するのではないかと迄思はるゝ事があります、呼吸が苦しい爲め子供は度々惡夢に襲はれ、睡眠中時々高聲を發し、或は泣き出し、或は突然飛び起きるなどありまして、遂には睡眠不足の爲め衰弱するに至ります、此等の症狀も扁桃腺さへ取り去れば其の晩から全然なほります。

その次に僂麻質斯といふ病氣と扁桃腺の病氣とが密接な關係をもつて居る事も、注意すべき事であります、數年以前から、リウマチ病の病原は扁桃腺から這入るものであるといふ事が知れましたが、此の頃「リウマチ」を根治するには扁桃腺を治療せなければならないと申す學者が居ります、實際「リウマチ」其物は藥を服用して治癒する事がありましても、其の原因を供給して居る所の扁桃腺が依然として病氣になつて居りましたなら、「リウマチ」は再三、再四起りまして、遂には慢性となり如何なる醫療もなほす事の出來ないものとなるのであります、それ故「リウマチ」に罹つて居らるゝ人は、內科醫の服藥も大切で御座いますが、其の原因となる扁桃腺の病氣を直す事が目下の急務なのであります。

口蓋扁桃腺肥大症は、此の外にも「アデノイド」の爲めに來る樣な顏の痙攣とか、夜尿症とか、種々の病氣を起す事があります、何れも肥大した扁桃腺を切りて取りさへすれば數年來の難症も一朝にして全治し得るものであります。

口蓋扁桃腺肥大症の療法は極めて簡單で、痛みもなく、出血も極く僅かで、容易に取る事が出來ます、併し此れも未熟な人が手術するか、或は病人の性質が普通と異つて居る時には、大出血を致しまして、生命を危くする事があります、それ故簡單な手術であるからと申しましても、迂濶には手術をしてはなりません。

口蓋扁桃腺が何故肥大するか、如何なる原因の爲めに大きくなるのか、といふ問題はよく患者から問はるゝ事で御座いますが、之れは「アデノイド」の原因

と同じ事で、多くは其の人の體質の爲めに來るものでありますから、親子兄弟が皆此の病氣をもつて居る事は珍らしくありません、そして、此病氣をもつて居る人は、多く身體が贏弱で、頸に幾つもぐり〳〵をもつて居ります。

舌根扁桃腺肥大症

は、多く二十歳以上殊に三十歳から四十歳前後の人に來る病氣でありまして、二十歳以下の人にはあまり多く見受けられません、此の病氣も「アデノイド」と同じ樣に、一寸口を開いた丈けでは見えないものでありまして、舌の根の所に、五つ、六つ、或はもつと多くの小豆或は大豆位の大きさをもつて居る瘤が出來るのであります、此れは「アデノイド」や口蓋扁桃腺肥大症程大なる害をなす事は少いのでありますが、之れも同じく扁桃腺でありますから、種々の病氣の原因となる事があります。

舌根扁桃腺肥大症の爲めに起る最も厄介な事は、咽頭の奧に何かかゝつて居る樣な感じでありまして、患者はそれを取ろうと思つて、度々咳嗽をするか或は、せきばらひをするものであります、之れによりて、一時は咽頭にかゝつて居るものが取れた樣な感じが致しますが、數分とたゝぬうちにまた前の感じが起ります、此の爲め患者はたえずせきをせなければならない樣になるのであります。

舌根扁桃腺肥大症の爲めに起る症狀の中最も多いのは聲音の變化であります、或る人は聲が容易に嗄れるといふて來る人もあります、また高調の音或はある調子の音が出なくなるといふて來ります人もあります、此等の音聲の病氣も、舌根の瘤即ち肥大した扁桃腺を取り去れば全然なほります、また謠曲をやる人や、長唄をやる人は、聲がつゞかない、少し歌ふと聲が出なくなるなどゝ申します人が有りますが、此れも多くは舌根扁桃腺肥大症をもつて居るか或は咽頭に何か病氣があるのであります。

以上三つの扁桃腺肥大症の中で、前の二つは多く壼兒に參りまして、種々の寒心べき病氣の原因となる

ものでありますから、子を持つ親の特に注意すべきものであります、之れ私が此所にその概略を御話したわけでありまして、諸姉の兄弟や、兒童等に斯様な病氣のある事を氣がつかれましたなら、一日も早く良醫の治療をうけられん事を希ひます。

育兒

病兒の觀察法に就て

この一篇は獨逸國の哺乳兒死亡豫防の目的にて建てられて居る「カイゼリン、アウグステ、ビクトリアハウス」の院長ドクトル、アルツール、ケルレル及び助手ドクトル、ワルテル、ビルク氏の著した『育兒教科書』中の一節でありますが、有益の事と存じますから、その大體を飜譯して御參考に供します。

病氣の小兒を取扱ふ場合には、その看病者の務は、大人の病人を看護するのとは種々の點に於て大分異つて居ります。大人なれば大抵自分で、醫師にその病狀を告げることが出來ますけれども、小兒になりますと、醫師は看病者にこれを訊ねるのであります。それで看病者の觀察は、一部分病人の告ぐる所を代理しなければならぬのでありますから、看病者がその觀察すべき事柄を心得て置くことは極めて大切なることであります。

且又病狀の增惡するのは、小兒に於ては、大人に於けるよりも餘程迅速に且つ烈しく來るものでありまして、かう云ふ場合には、看病者は醫師を招く前に、自分で手當をしなければならぬことが往々あります、例へば不寢番をするやうな時には、よく遭遇すことでありますが、斯様の際になりますと、善く觀察して得た所の經驗は、何時も役に立つのであります。

小兒のオシメを取換へるとか、衣服を著せるとか、

又お湯をつかはせる時などには、種々の病狀を觀察することが出來るものでありまして、これを知て置けば、或場合には非常に役に立つ、殊に醫師が治療の方針を立つるに就ては重大なる意味を持て居ることであります。

この觀察法としては、小兒の衣服を脱がせる時は、何時でも先づ暫くの間、そのまゝ靜に眺めると云ふことに定て置くのが最も宜い、而して全體に亙て觀るのでありますが、次には只その各個のことを一つ〳〵擧げて參ります。先づ

小兒の皮膚色　生れたての赤坊の皮膚は、名の如く著しく赤い色をして居ります。二三日の後に黄疸を起すことが間々ありまして、その時には皮膚は稍々黄ばむで參ります。而してこれが再消褪る時には、最早以前の如く皮膚の色はさうひどく赤くはありません。元來非常に美しい、活々した色をして居るのは、健康なる母乳兒の特色でありまして、母乳兒も長い間全く婦人の乳のみを以て養ふ、即ち丸一年間も哺乳させせますれば、さうすれば漸次鮮な皮膚の色合が失せるものでありますが、病氣のある小兒は又別であります。

小兒が病氣になれば、忽ち蒼白くなる。母の乳で育てゝ居る小兒でも、病氣に罹れば、その活々して色が無くなる。最も惡く見えるのは、重い消化障碍或は長く續く所の病氣、例へば結核などに罹つて居る小兒であります。而してその蒼白い色は、灰色がかつて來て、この狀態が更に惡くなりますると、皮膚は今度は靑味を帶びて參ります、而してその最も著しいのは何時も額と顳顬の部分であります。

小兒が又急性疾患に罹る、即ち突然病氣が起る時には、時として皮膚の色が變に靑味を帶びて來ることがある、特に小兒の脣、又は鼻によく認めらるゝ所で、この色は、これをチアノーゼ(紫藍色)と申しまして、小兒の心臟衰弱に由て起る所のものであります。

小兒に牛乳の外に野菜、殊に胡蘿蔔を食べさせます

と、皮膚が微かに黄色になる、就中鼻の尖が先づ黄色になる。卵で養ふ時にも亦この傾がある。總て小兒の皮膚が斯様に變化する時でも、粘膜だけは關係しない、例へば小兒の口脣は何うもありません。若し口脣が蒼白くなれば、これは大抵貭の貧血に由るのが通常であります。

小兒の舌は、平常の狀態に於ては、蒼白紅色で濕潤ふて居るものであります。若し小兒が病氣になりますと、殊に榮養障碍に於きましては、舌、殊に舌の尖の所が、既に早くから非常に赤くなる。若し病氣が更に進めば、單に赤味を增すのみならず、舌はその濕潤を失ふて、乾燥いて粘るやうになり、長く續く所の重い熱病では、灰白色の、往々非常に厚い苔が舌に出來るものであります。

矢張病氣のある小兒に來るもので、屢々見る所のものはグール卽ち鵞口瘡と云ふものであります。これは小さな、白い、留針の頭位の大きさの黴菌の塊であります。これと間違い易いものに、小兒の地圖舌（リングア、ゲオグラフィカ）と云ふものがありますが、これは害も無いもので、療治するにも及ばず、別に心配せずとも宜いものではあるが、然し醫師に取つては、非常に重要なる症狀となつて居るものであります。

病症の重い場合には、小兒の舌は乾燥いて、汚穢くなつて、皹が入つたやうになります。生れたばかりの小兒に於ては、往々白脣が剝れて、むくむだやうになることがあるものですが、これは別に病氣の爲ではありません。

脣に深く皹裂があつて、それが口脣の赤い部分を越へて、皮膚の方まで行て居るものは、氣を附けなければなりません、これは遺傳黴毒の徵候になつて居ります。

小兒に屢々見る所の畸形は、上脣の幾分缺損して居るもの、所謂兎脣と云ふものであります。

小兒の眼に就ては、殊にその第一日に於て、特別に注意することが必要であります。何れの小兒でも、

生れたならば直ちに硝酸銀水を點眼しなければならぬと云ふことは、産婆や醫師の方の規則になつて居ります。所が時として、産婆がこれを忘れるとか、或はその硝酸銀がきかなくなつて居るとか云ふ場合には、所謂小兒の膿漏眼と云ふ恐るべき眼病の發することがあります、これは眼から膿汁が流れ出すので分かります。然し又硝酸銀液そのものが、眼の結膜をひどく刺戟して、膿のやうなものゝ出ることもあります。硝酸銀及びこれに由て皮膚の濕された部分は、日光に出て黒褐色に色が變はるものでありますから、初生兒の眼の縁が多少黒くなるのは、先づ當然としなければなりません。

病氣に罹つて居る小兒の眼を觀察すると云ふことはなか／＼大切なことでありまして、病氣が段々惡くなるに從つて、眼はその光澤を失ひ、瞬目をすることが稀になり、白眼の部分に觸るれば、不隨意的に眼を閉ぢる、所謂角膜反射と云ふものが遲鈍になります。それで眼の反應と云ふものは、小兒全身の反應如何を見るに極めて善い標準となるのでありますす瞬目をすることが稀になりますと、時としては眼に焮衝を起して、乾燥し、白眼には無數に小さな血管が現はれ、遂には眼に潰瘍を生ずるやうなことがあります。斯樣な狀態を呈しまする時には、看護婦は十分注意することが必要である、如何となれば、小兒に於ては、斯樣な狀態の進行することは、大人に於けるよりも著しく迅速なるもので、重病の小兒も、生命だけは幸に取り止めたが、眼の注意が足りなかつた爲に、遂に眼の光を失つてしまふと云ふやうなことが往々起るからであります。

小兒の前額の上の中央の所に骨の隙間があります、これが所謂大顖門と云ふのでありまして、これを觀察することは矢張非常に大事なことであります。この骨の隙間は、總ての小兒に於て多少大なる廣さを有して居りますが、通常生れた後に最も大きく、それから漸次小さくなつて、生後一年を經てば、間もなく全く消失してしまふものであります。

通常の狀態に於ては、これは目には立たない、只指で觸れて見ればその境が分るのでありますが、重症の小兒、殊に下痢を起した小兒で、即ち身體の水分を澤山失つた場合には、この顖門が窪みます。又反對に、頭蓋の內の水分の量が增す、例へば腦水腫とか或は腦膜炎とか云ふ場合になりますと、顖門は膨れるのであります。

顖門からは、種々の方向に、所謂頭蓋縫合が走つて居る、即ちこれは各個の頭蓋骨が聯接して居る所のその境の線であります。この頭蓋縫合は、後頭にもあり、頭蓋の兩側にも在りますが、普通の小兒では一寸これを觸れることが六ケ敷い。所がある場合に於ては、例へば前に云ふた腦水腫などの時には、小兒に湯をつかはせて、頭を清潔にしてやる際などに頭蓋を觸つて見ますと、この頭蓋縫合が又軟かになつて開きかけて居ることを確かめることが出來るのであります。

甚だ重要なる症狀の一つは、小兒の後頭骨の軟かになることでありまして、これは生後第二年目に見る所でありますが、所謂クラニオターベスと申しまして、英吉利病(佝僂病)の最初の症狀であります、早くこれに氣がつけば大概眞の英吉利病の發るのを防ぐことが出來るのであります。斯樣な小兒は、又後頭部に、ひどく汗をかくものであります。

小兒の頭の格好が惡いのは、隨分屢々見る所でありますが、これは小兒の寢かし方にも由ることでありまして、後になれば別に何のことも無いものであります。小兒の頭蓋のことを話す序に、も一つこゝに申して置くべきことは、哺乳兒の頭を洗ふ時に、殊にその耳を清潔にしやうとする際に、疼痛を感ずるので、初めて中耳炎のあることが發見されることであります。

小兒を觀察する時には、只種々のことを視るだけではない、又聽くことが出來ます。例へば、遺傳黴毒の小兒に特有なる乾燥したやうな鼻息を聽くことが出來る、又感冒にかゝるとか、扁桃腺が大きくなる

とか、或は氣管、肺の炎症等が起つて、上部氣道に何か故障のある場合には、小兒の喘鳴或は鼾などを聽くことが出來ます、一體小兒の呼吸は、大人よりも忙しいものでありますが、これを數へるのには眠つて居る時が一番宜い、或は靜にして居る時に數へるのであります。哺乳兒の呼吸が難儀になつて來ますと、頸或は横隔膜の附著部が引込む、それで肪骨の下の方が引込まれるものであります。哺乳兒の重い榮養障碍では、往々呼吸が著しく深くなることがあります。小兒は比較的緩慢に呼吸するけれども、その各個の息つきが異常に長くなる、これが所謂大呼吸と云ふものであります、腦の病氣がある小兒では、又一種特別の呼吸を見るものである。その呼吸は、最初極めて靜かで、それから強くなり段々大きくなつて來て、次で再び徐々に力が弱くなり而して暫時間全く止む、これが所謂シャイネ、ストック氏呼吸と云ふものでありまして何時頃からこの特有の呼吸現象が始まつたかと云ふことを知るのは、醫師に取つて往々大切なことがありますから、看護をして居る人は、多少これを見分けることを知つて居なければなりません。

又早產兒、月足らずの小兒に於ては、往々非常に呼吸が弱く、しかのみならず時々呼吸を休むで、顏が紫藍くなり非常に危險の狀態に陷ることがある、所謂アシフイクシーと云ふやうな狀態に陷ることがあります、斯樣の場合には、胸や脊中を敲き、速に湯に入れ、或は水を灌ぎかけ、或は酸素を吸入せしむる等の手段を施さなければなりません。又屢々遭遇することのあるものは、聲門痙攣であります。これは、長く鷄が鳴く時のやうに引く所の息つきになりまして、この際小兒は將に窒息せんとするかの如き顏つきを致します。この聲門痙攣は、實際時として小兒を死に至らしむるものでありますから、痙攣を起す傾のある小兒に於ては、極めて重要なる症狀であります。

小兒の腹に於ても亦いろ／＼觀察すべきことがあり

ます。通常腹壁は、多少緊張して居つて略ぼ胸と平等の高さにあり、皮膚そのものは善く瑞々して居つて、その下に在る所の組織から引離すことが出來ません。小兒が何ぞ榮養障碍を起しますと、忽ちこゝに變化を來して、腹壁は菲薄くなり、病狀が重くなるに從つて、益々腹壁緊張の度に變化を來して、薄くなつて、膨れて參ります（鼓腸症）、而してその下に在る所の腸の模樣が分かるやうになり、皮膚には血管が現はれ、若し皮膚を摘み擧げれば、その襞は久しい間そのまゝになつて居る。此等の現象は何れも、榮養の障碍された小兒に於て見る所でありますが、時としては腹壁が膨隆せず、反つて引緊つて引込むで居ることがあります、これは饑餓腹に特有の形であります。

臍帶は、小兒が生れた時に結紮して切り離せば、既に二日目より漸次乾いて、通常五日乃至八日も經てば、その殘は、脫落れて、尚兩三日は、その附著部から僅かに分泌物がありますけれども、適當に處置して置けば、大概二三週の後には、創は全く皮を以て被はれて閉ぢてしまふものであります。然るにその取扱が惡い爲に、創が直らず、抵抗の弱い瘢痕を結ぶことが屢々あります、さうするとこれが臍ブルックの基になつて、小兒が激しく啼泣とか、或は咳嗽の出る病氣に罹るとかすれば、この部分に所謂臍ブルックを發する、卽ち出臍であります。これは又この外に下腹部の兩側に、所謂鼠蹊ブルック及び脚ブルックとして起ることもあります。腹と大腿との境の所には鼠蹊靭帶と云ふのがありますが、病氣のある小兒には、往々この部分に澤山の硬い小さなグリ〳〵を見且觸れることがある、卽ち淋巴腺であります。

小兒の四肢に於ては、羸瘦は特に著しく目立つものでありまして、鼠蹊靭帶の下に當る、大腿の內三角部と云ふ部分が第一に瘦せるものでありますが、腕でも脚でも、病氣の小兒或は病氣をした小兒に於ては、尚ほ暫くの間甚しく瘦せて居るものでありま

す。然し又反對に、異常に膨れることがある、卽ち足の甲、それからまた脛、尚ひどい場合には、ずつと上に昇つて、髖骨の邊までも腫隆ることがある。これは所謂浮腫と云ふもので、水が溜るに由て起るのであります。

生れて最初一ケ月に於ける健康小兒の臂の位置は頗る特有なもので、その臂を肘の部分で曲げて、上の方に廻はして眠ります、それで小兒の手は頭の兩側に來るやうになるものであります。若し嬰兒に於てこの手の姿勢が闕如け、或は只一方にのみ存する時には、所謂分娩麻痺に因るのではなからうかと云ふことを考へなければなりません。又遺傳黴毒のある小兒に於ては、時として臂の假性麻痺を見ることがあります、(パルロット氏麻痺)。

痙攣を起す所の小兒に見る所のもので、助産家の手と稱せらるゝ一種特有の手つきは、甚だ重要のものでありまして、これは又足にも起ることがあります。

佝僂病の小兒には、前膊骨及び下腿骨の下の端が膨れることが屢〻ありまして、所謂下端肥大症、俗に二重肢(ドッペルテ、グリーガル)と云ふやうな狀態を呈して參ります。

最初に先づ目につく所のものは、小兒の皮膚の種々の病氣、例へば頭の皮脂漏であるとか、顏の乳痂であるとか、關節の屈曲面や陰部の濕疹であるとか云ふやうなものでありますが、此等のものは悉く取扱が惡い爲と云ふ譯には參りません、寧ろ多少生れつき皮膚病を起し易い傾をもつて居ると云ふ關係があります、併し又往々榮養か過ぎるとか、或は偏頗な榮養法を行ふとか、誤つた小兒の榮養法に由て起ることもあります。

夜怯症

晝の間全く健康で機嫌好く遊び暮した子供か、夜牀に就て眠つたかと思ふと、やがて一二時間を經てから、突然目を醒して、けたゝましい調子はづれの

聲を出して、非常に恐怖した樣子で泣き叫び、一緒に寢て居る父や母にしがみつき、或はむつくと起き返つて眼を据へ或は悲しげな顔つきをし又は心配げな樣子をして、矢鱈に譯の分からぬことを饒舌り出し、狼が來たとか、妖怪が來たとか云ふて、顔の色を變へて冷汗を流すやうなことがある、所謂怯えるので、これが即ち小兒の夜怯症と稱する一種の神經症である。それは一晩の中に數回もこんなことがある、而して數週間或は數ケ月を隔てゝ時々起ることもある。子供はその時は今述べたやうな有樣であるが、五分か十分も經てば、再び平氣で何の事もなげに獨で又眠つてしまふ、而して翌朝になれば大抵何も知らぬのが普通である。

これは大抵三歳から七歳位の間の子供に多く見る所て、體質の虚弱な、蒼白い色をして居る、所謂神經質又は腺病性の小兒に起るものであるが、精神病又は神經病、酒飲の親の間に生れた小兒に多い、兎に角神經性の遺傳ある小兒に多いことは事實である。又胃が悪いとか腸が悪いとか、消化器の弱い小兒に多い。尚は無主義の家庭、小兒の教育に意を用ひない、むちやくちやの家庭に育てられる小兒に多い。又妖怪譚を聞かせるとか、薄氣味のわるい繪を見せるとか、學校の試驗前であるとか、もう幾つ寢ればお正月だとか、芝居又は活動寫眞を觀るとか云ふやうな精神感動を與へることがあれば、これが誘因となつて其晩には夜怯症を發し易い。其他茶とか、珈琲とか、酒類とか、大人の飲む興奮劑を用うる時は起り易くなる。又扁桃腺が大きくなつて居るとか、鼻茸が出來て居るとか、耳漏が出るとか、或は蛔蟲がわいて居るとか云ふことも夜怯症に關係するやうである。

これを癒すことは一寸困難であるが、兎に角右に舉げた原因或は誘因となる事は、出來得るだけこれを除き、これを避けなければならぬ。詳しく言へば、咽喉、耳、鼻等に病氣があれば早速これを癒してしまひ、腸に寄生蟲が居るか否やを檢して、居ること

が分かつたならば驅除療法を行ひ、興奮性、刺戟性の飮食物を避け、淡泊なる食餌を與へ、殊に夕飯は就寢直前にならぬやう、なるべく時間を措き、激しい精神感動を起すやうな芝居や活動寫眞などを觀せることを止め、馬鹿らしき妖怪譚や、恐ろしき繪畫等を見聞せしめず、尙ほ幼弱なる小兒の抵抗力に乏しき過敏の腦髓を振駭せしむるやうな、馬鹿喜をさせたり、餘計な叱責方をしたり、要らざる威嚇方をすることを禁ずる等教育上の注意が肝要である。最もこの夜怯症と云ふものは、十三四歲になれば大抵は自然に癒るものではあるが、然ればと云ふて等閑に附すべきものではない、確かに一種の病氣であつて、癲癇や腦膜炎などの初期に斯樣の症狀を見ることがある、さうでない所が、將來に至て重い神經病に罹るやうなことがあるから、斯樣な小兒はその體質を根本から改良する考で以て、消化器や神經を丈夫にし、便通を整へ、適當の强固法を行ひ、自然に無邪氣なる隨意運動を奬勵し、尙ほ就寢前に灌腸を施し、溫浴を行はしめ、寢室の明暗を適度にするとか、種々の注意が必要がある。此等の事に就ては然るべき專門の醫師に診察を受けて、その小兒小兒に依て、適當の療法を講じ養育上委細の注意を聞くが宜しい、これに由て頑固の夜怯症も忽ち止むことがある。

小兒の大小便

小兒の身體を養ふ所の榮養物、即ち母乳、牛乳その他の榮養品に就て大體の智識を有つて居ることは、單に小兒科の醫師のみならず、普通一般に何れの親保育者にも必要であることは申迄もないことでありますが、扨その榮養品は、小兒の身體の內に入つて悉く肉や血や骨に成るものではありません、必ず餘分なもの、滓が出來ます、小兒の身體を養ふに最も適當な母乳でも、これが直ちに身になるものではありません、胃や腸の內に於て種々複雜なる變化を

受けて、漸く活きた身體の成分となるのでありますから、何うしても餘計な部分が殘ります、その殘つた滓は、是非これを身體の外に出してしまはなければならぬ、即ち主として尿、糞便となつて排泄せらるゝのであります。そこで此排泄物、即ち大小便を檢査して見れば、その飲食物の如何なるものであるか、又その消化の狀態如何と云ふことが最も善く分るのであります。譬へば糠を見て、米の精白如何を知るが如きものであります。故に小兒の養育者は、榮養品に就て注意すると共に、排泄物に就ても注意することは極めて肝要のことであります、斯くて初めて小兒の消化榮養の狀況に就て能く注意を拂ふて居ると云はるべきものであります。世には天の與へた自然の乳がありながら、その生の子に自分の乳を閉ぢて、獸類の乳を與へ、排尿、排便は全く人手に任せて顧みぬやうな親もありますが、これは全く不心得な話であります。苟もこの世の中に健全にして有爲なる子孫を養育して貢獻する所あらむことを願ふ人は、是非自分の乳を以て自分の子供を育てゝ行くと云ふ考でなければならぬ、然る以上は僅かにその哺乳時期の間位は、毎回自分の愛兒の健康の爲に、簡單なる排泄物の檢査をすることを太儀とすべきではありません。別に醫學的檢査と云ふ程の面倒のことを希望する譯ではありませんが、毎回その襁褓を交換するとき、又は便器に排泄せしむる際に、少しく注意して觀察さへすれば、それで結構である小兒が病氣に罹つて醫師を招く時には、醫師は必ず先づ第一にその大便の樣子を訪ねる。その際母に聞けども母は全くこれを御存知ない、そこで女中を呼んで尋ねて見れば、女中は勿論そんなことに注意はしない、直ちにオシメを丸めて盥の中へ擲り込んで仕舞ひましたから一向分かりませんと云ふやうな場合が往々あります、實際尠なくない。若しその際これが分かつて居るか、醫師が直接に見ることが出來れば、既にそれだけて以て立派に診斷がついて、直に適當な治療を施すことの出來る場合が往々あるの

でありますから、小兒が病氣に罹つた時は無論のこと、健康な時でも大便と小便は必ず氣をつけて、その大體の性狀を觀察して置くことを規則としたいものであります。小兒の尿や便に就て精密な醫學的檢査を施すことは、なか〳〵面倒なことで專門的の仕事でありますから、それは必要に應じて醫師が檢査する所でありますけれども、次に普通觀察すべき標準だけを擧げて置きます。

小兒は生れて間もなく大便を排泄致します。これは胎便と稱してお胎の中に居る時に少しづゝ嚥下だ所の羊水、上皮細胞、胎毛、膽汁成分などに由て出來たものでありますが、暗綠褐色、先づ一寸黑い色をした、ねば〳〵した大便であります、然し黴菌などは居りませんから、殆ど臭は無い、全く無いと云ふても宜いのであります。この胎便は初の二日間位出まして、それから黃色の便が混り、四五日目からは全く黃色な便になるものであります。

母乳を以て哺育する小兒は一日二回乃至四回、黃色の粥の如き同質の、稍や酸いやうな臭のする便を排泄するのが普通であります、然し綠色を帶び、水分多く、粘液を含み、物質に乏しく、切れ〳〵に、凝固つた樣な便を排泄し、その回數も三回乃至五回もあつて、別に榮養發育に變りもないものもありますと云ふてこれは決して普通のものではない、矢張腸胃に故障があるものと思はなければなりません、況や血液などが混つて來る場合には、小兒は何ともない樣でも、決して打棄て丶置く譯には參りません。

胎便は黑いやうな色をして居るものだからと云ふて數日も經て後尙ほ胎便が出るなど丶思ふて居ると案外腸から出血して、それが黑い色になつて出て來ることがありますから、これを誤つてはなりません牛乳を以て哺育する小兒にありては、母乳榮養の小兒の便よりは多少硬く、幾分か白い物が混じつて、灰白黃色をして居る軟膏位の硬さの便を排泄するのが通常であります、最もこれは牛乳の性質にも由りまして、薄い脂の少い牛乳では、便も矢張薄く、稍や

綠色を帶びて、微かに臭ふものであります。小兒が少しく成長して乳の外の物も食べるやうになればその食物次第で、便の色も硬さも種々變つて來ますが、先づ普通帶黃褐色の便で一日一二回あるのが通常であります。

それで哺育者の常に注目すべき要點を擧ぐれば便通の回數、便の色卽ち黃色であるが、綠色であるか、褐色或は黑色、又は灰白色であるか、尙ほ血液が混じては居らぬか、粘液が多くはないか、塊狀若しくは顆粒狀のブツ〳〵したものが混じて居らぬか水の樣に出るか、泡沫を含むでジク〳〵と出るか、又は塊まつて出難いか、全く臭氣が無いか、只酸いやうな臭がするか、或は卵の腐敗したやうな臭はせぬかと云ふやうな事實であります。

次に尿も亦小兒の健否をトするに大切なものであるから、哺育者はこれも亦能く心得て居らねばなりません。

初生兒は、大抵第一日の中に少量の尿を排泄するものでありますが時とすると半日又は一晝夜を經て初めて通ずる事もあります。而して始の間は、尿酸鹽と云ふ赤色又は黃色のものが粉になつて襁褓に附着することがありますから、血が出るのではないかと思ふて驚くことがあります、尿にも微し赤い色がつく、この爲に尿道に刺戟があつて、小兒が排尿する時に不穩の啼きかたをすることがある。然しこれは大概一二週間で止むものであります。

哺乳兒は、始の頃は少量づゝ幾回も排尿するもので一日の中に十回乃至二十回、或はもつと多く致します、牛乳で榮養する小兒は母乳兒よりも一層澤山排尿致します。その量を測つて見れば、大約一日に百三十乃至二百ガラム位のものであります。

段々小兒が成長するに從つて、一回の尿量が多くなつて、その代りに回數が少なくなつて參ります。半年以後には一日に六百ガラム、二歲以上になれば、千ガラム或はも少し多くなります。

初生兒の尿は殆ど水の如く色も無く臭も致しません

が、漸次淡く色がついて、乳の外の物を食べるやうになれば略ぼ大人の尿の如く淡黄色透明にして、一種固有の臭氣を帶びて參ります。

右は健康の小兒の尿でありますが、これが病氣になると種々の變化が現はれます。消化機の障碍に由ても變化を來し、殊に心臟、腎臟及び膀胱等の恐るべき病氣に由て尿の量及び性質に變化を來します。それ故に哺育者は先づ小兒の尿の回數、殊にその色に注意し、少しでも變りがあると思へば直ちに醫師に檢査してもらふやうにすれば宜敷い。尿を清潔に洗つた瓶又は硝子製の尿器に取る。尿を取て暫く經てば溷濁りますけれども、これは大概病氣の爲ではありません。然し血が混じて來るとか、ある寄生蟲の爲に乳のやうに眞白な尿が出るとか言ふ場合には、少しく注意すれば、その變化を見逃すことはありませんが、蛋白とか、糖分などか混じて來る重病に罹つても、一寸小便の色だけでは分からぬことがありますから、小兒の健康に異常あることを認めたならば必ず尿を罎に取つて醫師の檢査を受けることが肝要であります。その回數及び量も診斷の參考となることでありますから、これ亦同時に留意すべき大切な事柄であります。

家庭衛生

料理と消化

食物の消化の良不良は、その胃の內に滯留する時間にもより、又その消化の間に胃液や腸液の分泌される量により、且吸收力の大小にも由ることでありまして、消化の間に起る所のこの生理作用は、實驗的檢査に依らなければ精しい研究は出來ません。動物試驗を致しますにも、此目的には少しも動物を苦しめる譯には參りません、只動物を厭がらすだけでも、その消化の機能は、非常に心理狀態と密接な關係が

ありますので、正常の機能を害するからであります。

そこで食物が胃腸の中に滞留する持續時間、絶對的分泌量、液化の度などを判定し、消化の全經過を健康なる生活動物に於て觀察致しますのには、パウロフと云ふ人が考案したもので、小腸の種々の部分に於て閉づることの出來る小さな孔のある、金屬の管を嵌込むのであります。斯樣に處置された動物(犬)は、長い間全く健康に生存して居ることが出來ます。この試驗に應用致しました犬は、小腸の上三分一と下三分一の所に、只今申したやうな管を入れてありましたが、これに依て得た所の成績を單簡に申せば次の如くであります。

二〇〇グラムの肉を喰はした後、胃は漸く三乃至四時間にして空虚になる。消化液の分泌された量(胃液膽汁及ひ膵液)は、非常に多く、二〇〇グラムの肉に依て一〇〇乃至一二〇〇立方センチメートルであつた。是に由て觀ると肉と云ふものは、餘程胃に厄介をかけるもので分泌機能を起さするには以て來いであるが、その代りに又胃の內に於て能く消化されて完全に役に立てられるものである。調理の方法(生、煮、燒、藥味を用ひ或は用ひず、たゝき、或は小さくせず)は、犬に於ては餘り消化に大なる影響を示さないが、只牛肉の煮たものは一時間程長く胃の內に止まつて居る。肉類の中で最も消化易いのはハムで同じく能く液化されるのには大凡只胃液の半分を要し、既に二時間の後には胃を去つた。

それで肉類の料理は、主として、食慾を催進することの多少だけが消化に關係する譯でありますが、然しこの食慾(アペチット)と云ふものは、胃の分泌及び運動に大影響のあるものであります。

生卵は、固く煮たものよりも容易に消化するのを見る。固く煮たものは、著しく長い間胃の內に止つて居るが、それにも拘らず、只僅しか液化されません。卵を消化するに必要な胃液の量は、矢張生卵に於て著しい(八五グラムの卵で分泌液三九九立方センチメートル)。軟かに煮た卵は、固いものよりも消化し

易く、生よりも消化し難い。
砂糖は、胃を煩はすこと甚だ僅かであるが、それにも拘らず、大きな塊も溶かされる。
パンは、胃の内では、肉よりも僅か消化される。その停滯して居る間が短かい、併し分泌量は餘り少なくない（パン二〇〇グラム、分泌液八二〇立方センチメートル）。焼パンは、これよりも更に胃液と膽汁の分泌を促すことが多い、而してその胃が空虚になる迄の時間は矢張パンと同じことである。故に焙つたパンは、通常のものよりも消化し易いと云ふ昔の説は、これと一致して居りません。上等のパンは下等のものよりも久しく胃の中に止つて居ります、それ故にごつ／＼したパンの方が胃に難儀をかけることが比較的少なく、軟い上等のパンは腸の方に當たりが薄いことになります。
馬鈴薯の消化は、主として小腸に到て行はれますが胃にもかなり難儀をかけます。これをフエットで焼いたものは何うかと申しますと、胃の中に比較的長く止まり、分泌も多くなる、然しその代りに、既に胃の中で能く溶ける。故にフエットでいためたものは、胃も腸もひどく骨を折るけれども、その役に立つ段に至ては頗る良いのであります。
パンは、同じ分量の蛋白質を含むで居る穀類や馬鈴薯よりも、膽汁の分泌を促すことが著しく強い、これはパンを焼く時に起つた變化に由るもので、それに膽汁の流を良くする作用がある、それであるから焼かない生のパン粉では、膽汁分泌は至て僅かであります。
肉類は、消化管の上の方の部分で殆ど吸收されてしまつて、小腸の下三分の一の部分には餘り逹しません。粉粥も同樣である。然るに稍や粗いパンになりますと、既に半時間の後には、小腸の下三分一の部分の管から出て參ります。粗製の糠パンは又これよりも早く、全く變化せずに出て參ります。併しパンにバタを加へますと、これよりも良く溶けて、その下り方も遥に遅い。豌豆、蠶豆、扁豆の如き莢のあ

る穀類は、非常に早く小腸を通過して、僅しか變化されないが、これもフエットを加へれば、稍や久しく胃腸に止まつて、かなり吸收されるやうになります。

通常の牛乳は、一時間の後には小腸の下部に達し、遠心器にて脱脂した牛乳は半時間で達しますが、乳皮は大抵此處まで到らずして、既に遙に上の方で完全に吸收されてしまひます。

只では消化の善くない食品でも、これにフエットを混せて料理すれば、胃と腸の内に止まる時間を長くし、これに由て吸收を高めることが出來る譯であります。それでフエットを以て料理した食物は、能く榮養の役には立つが胃と腸とに苦勞をさせることが著しい、昔は慢性の便秘症には、粗製のパンにバタを澤山つけて食べよと云ふ處方をしたものでありますが、これは全く誤りで、その作用は、目的とする所と丸で反對である。斯樣にすればパンは大腸に來ること遅く、且餘計に溶けますから、從て腸の蠕動を起すことは遙に弱くなる譯であります。

又豆類の如き元來消化の惡いものを、肉類の如き消化の善いものと一緒に食べさせますと、前のものも矢張幾分消化方が良くなります。

林檎粥は、生の林檎よりも早く腸の下部に達する、生の林檎は大腸に達するまでには、丁度粥位の固さに溶かされて來るのであります。それで斯樣な果物類は、これを煮てコムポットにして與へれば、消化器を苦しめずに、利益が多い譯である。右の試驗は、動物性の食品、植物性の食品、竝びにその併用の撰擇如何に由るのみならず、臺所に於ける料理方の如何に依て、その消化方に影響を及ぼすものであることを示して居りますが、特にこれは植物性の食物に就て考ふべき事で、單に煮て器械的に細かにしたり、磨潰したりするのみならず、又脂を加へれば能く身體の役に立つやうになるのであります。これに反して脂を加へぬ料理は、身體の役に立つことは多くないが、その代りに胃腸をいたはると云ふ點は優

つて居る。

何れにしても、健康の身體であれば料理が善く、食慾を促し、從つて精神の働と分泌作用とを助けにするならば、種々の食品、又色々に料理された食物を同樣に能く消化することの出來る能力を持て居るのであります。理想的に消化の善いもの、詳しく云へば、能く身體の爲に用ひられ、只暫時間胃腸の内に停滯し、分泌を要することが多からざる食物と云ふものは至て僅であります。含水炭素物の代表者、就中その中でも砂糖の如きは先づ最もこの理想に近いものである。次にその他の食品の中では卵、それから肉類の中ではハムなどが消化し易いものになつて居ります。この外のものに就ては、能く身體の役に立つ所の食物と云ふても、多少胃腸を煩はすものであるから、調理に當ては、主として小腸の代りに胃の方を大事にしやうか、或は反對に胃よりも腸の方を大切にすべきかと云ふことを考へて料理をすることが肝要であります。

妊娠産褥中の美容法

これは毎月本誌叢談欄に連載致して居ります美容法の續で、其中の一章と見るべきものでありますが、普通の場合とは異りますから、特に此標題を掲げ、又編輯の都合上本欄に收むることゝ致しました、尚ほこれは衞生上特別に必要の事でもなく、濫用すれば反て害を招く虞があるから、只注意して參考せられたしとのことであります。（編者白す）

妊娠と云ふものは、元來婦人の生涯に於ては正常の機轉であつて、その生活の絶頂とも云ふべきものであるから、健康も美もこれに伴ふて居る筈のものであります。然るに往々異常の經過を取つて、これが病氣の源となることが尠なくない、それが爲めに今日の文明婦人、殊に歐米の婦人等は、妊娠を以て健康並に美貌の墓場と稱するものさへある程であります。

妊娠中に起る所のもので、前にお話をしたことのあるクロアスマとか、或は産後の毛髪脱落だとか云ふやうな一時的の障碍に就てはこゝに之を略しまして只何時迄も身體並に美貌を害する所の創に就て簡單に述べることゝ致します。それは先づ第一持續的に、卽ち何時までも格好を惡くする、特に胸、腹及び脚などの外觀を惡くするものである。この妊娠事に於ける形貌、格好の爲の養生法としては先づ三通の方法があらうと思ふ。第一には食餌攝生法に由て、胎內の子供は强壯で而かも餘り脂肪肥のしないやうに、又胎水が餘り多く溜まり過ないやうにして、なるべくお腹の膨れ出すのを制限する工夫であります。この食餌攝生法としては、出來るだけ液體を飲むことを避け或は制限する、殊にコーヒー、麥酒、ソツプなどは全く用ひぬやうにする、但し野菜や肉類は隨意に食べて差支ない。含水炭素物、例へば馬鈴薯、飯、パン、時に菓子その他粉製の食物も、なるべく控へるやうにするのであります。

第二には、散歩や、家庭の仕事に依て、妊娠の終に至るまで十分に運動することでありますが、殆ど妊娠の終に至るまで又適度の體操法を應用することも出來ます。これは胸や腹の形貌の爲には頗る良效のあることでありまして、その手引としては、獨逸のミユルラーと云ふ人が著はした『余が法式』と云ふ良い書物がありますが、その中に於て適當と思はれるものを擧げて見ますれば、次の如くであります。

一、少しく脚を開きて立ち、胴を廻はす、臂を高く擧げ、上體を以て腰の上にて可成大きく圓を畫く。五回。

二、臂を前上方に延ばし又下後方に延す。五回乃至十五回。

三、平なる寢臺の上にて上體を起す。始は足の先に紐を渡して支へるやうにしなければならぬ。只の敷物の上にて行ふ時は、何ぞ家具の下に足尖を入れて支へなければならぬ。後に至ても矢張同様、腹筋の爲めに特に效のある練習法は、始

め臂を體に沿ひて置き、後に頭の側に延す法である。五回乃至十回。

四、臂を廻す法。五乃至十回乃至十五回。

五、上體を屈する法。最初は前方へ、手は體に置き、鎖骨より下腿に至るまで滑らして屈する。この際腹を強く引込ます。次で體を起す。この際再び手を滑り歸し、後方へ屈す、而しこの時には、なるべく腹を突出するやうにする八ケ月に至る迄行はるゝも、第三及び第五の練習は、往々只七ケ月まで應用し得るに過ぎぬ。無論これとても、豫め常に醫師との商議に依らなければならぬ。

最後の養生法としては、皮膚の衛生に注意すべきことは、分かつた話でありますが、この事に關しては、嘗てその條下に說きましたから、其處を御參照になることゝ致しまして、此處には每週二回、或は更に每日一回づゝ溫浴を取ることをお勸め致します。溫浴の後には、富裕な人はマッサージを行はしめる。これは皮膚の彈力性を高めますから、從て形貌を保持し、又妊娠線の生ずるのを避くるには最良の手段であります。そのマッサージは、僅かに上體を起し、稍や上腿を屈し、ランゲル氏の分裂線と稱して―皮膚の彈力方向に從つて行ふのであります。この線は下腹部に於ては、臍を通じて水平にあるものとし、それから下內方にすぼんで陰部まで走り臍より上の方では、腹の上を水平に乳房まで走り、乳房の所では、乳嘴を求心性に取卷き、上腿に於ては外側から下方に膝の內側に至るものと想像した所の線であります。卽ちこの線に沿ふて皮膚の皺を撮み上げて、指を以てなるべく高く擧げて揉捏のであります。その他矢張その方向に於て皮膚を輕擦つてなるべく引延ばすやうに致します。

妊娠後半期、寧ろ四ケ月頃になれば西洋婦人もコルセットを除きまして、その代に彈力性の腹帶を用ひますが、長さ二メートル、幅三十五センチメートルのフランネルを以て腹帶とするのが最も簡單であり

ます。卽ちその中央を腹の中央に置いて、それを後へ廻はし十文字にして前へ持つて來て、適度に緊めて安全針で留めるのであります。乳房の爲めには、乳房おさへが出來て居りますが、これは彈力性のものは宜しくない、木綿か麻布の幅の狹い袖無で、肩から著るやうにし、釦はつけず、頭から被つて腕を通すやうに拵へるのであります。印度の婦人は一般にかう云ふものを著て居るさうであります。

お產の後は、先づ十日か十四日位は、どうしても牀に就て居るのが宜敷い。近頃になつて、お產の後には可成早く牀を離れるが善い、既にその日から起きても宜いなどゝ云ふ先生方も間々あるやうでありますが、これは只二三の人の云ふことであつて、それには又特別の經驗が無ければ云へぬことで、且病院などに於て試みる位のものであらうから、それが害が無い、況や善いなどゝは一寸言ひかねることで、矢張一般には昔通りに守ることを勸めなければなりません。

既に牀を離れましたならば、四週乃至六週間はしつかり腹を卷かなければなりません、これには長さ六メートル、幅十五センチメートル程の護謨帶を用ひまして、胸から股の邊まで適度に卷きます。ベンデル氏の理想的束帶と云ふのはこれよりも、通常幅の廣いものを用うるのであります。普通の腹帶では思ふ程に緊めることが六ケ敷い。而して二週間の中頃からは、就寢前にはこれを除き、朝にこれを施す前にはマッサージを應用すれば至極結構であります。

それには次の方法位が宜しい。

一、只全腹部を深く揉むこと

二、手を握つて、その指の骨の所を以て身體の方向に從つて腹壁を上下に擦ること

三、手を廣げて迅速に輕く腹壁を敲くこと

三週間も經つた後には、又體操的練習法就中前にお勸めした體を廻はす法及び體を起し及び體を屈める法を始めるが良い。六週間から　そろ〳〵束帶を除いて宜しい。胸の形を保つのには、婦人が自分で小

兒に哺乳せしむるのが最も良い方法で、これはその他の爲にも大切なることである。而して五ケ月或は六ケ月頃より人工榮養法に移れば婦人の胸の格好を保存するには最も良いのであります。

婦人は又妊娠の爲めに、よく靜脈擴張症を脚に來すものであります。これは子宮に依て靜脈血の返流を妨げられる爲に起るものでありまして、これは頗る外觀を惡くし、又年取つてから惡い病症を發するやうなことがある、これを避けるのには、彈力紐、卽ち護謨帶の如きものを以て、下腿及び上腿を膝の上一横手位の部分まで卷くのであります。お產前二三ケ月及び起きてから四週乃至八週間これを施す。右の理由に依て、又彈力方向に從つて皮膚のマッサージを行ふことが頗る良い方法であります。

其他妊娠に基く所の美容を害する所のものは、腹、股又は胸に生ずる所の妊娠線、及びこれに類似の瘢痕でありますが、これは前述の腹帶に依て餘程防ぐことが出來る、胸の方も矢張同樣の注意に依てこれを避けることが出來ます、然し一旦これが生じた後は、如何なるマッサージも效が無いものであります

身體の洗濯（承前）

八、呼吸器の洗濯

呼吸器、卽ち喉頭、氣管、氣管枝及び肺臟の洗濯となると、これ迄述來つた所の皮膚や口の洗濯とは大分趣が違ふ、石鹼やブラッシを用ゆる譯には行かない。所が自然は善くしたもので、斯樣な手の屆かぬ所には自ら巧妙なる石鹼やブラッシが具附けてある。これは自働洗濯裝置とでも稱すべきもので、その裝置と云ふのは、呼吸器の粘膜には纖毛上皮と云ふブラッシが一面に植附けてあつてその表面には常に粘液と稱する所の石鹼が塗りつけてある。この石鹼は絕えず呼吸器粘膜の表面を被ふて居て、空氣や塵埃の刺戟を防ぎ、蒸發すれば、それだけの分量を後から〳〵と分泌して、決して絶やすことなく、又

餘分に塗り過ぎると云ふこともない、これが少しく溜まれば謦咳又は咳嗽に依て口の方へ逐出して掃除をする。その出されたものは所謂喀痰である。

謦咳と云ふのは、舌根と下降せる軟口蓋とに依て出來る狹い隙間を呼吸が通る時に發するもので、エヘン、オホンと所謂衝突狀に發する場合には、これと同時に閉ぢた所の聲門を強く押開くのである、但し謦咳は、常に意識を以て卽ちわざとするものであつて、次に説明する所の咳嗽とは少しく異なつて居る、所謂セキバラヒである。

咳嗽は豫め深く息を吸込むで置いて、聲門を閉ぢ、それから急に衝突狀に息を出すのである、而してこれに依て聲門を押開くと同時に呼吸器の粘膜に附着して居つた所の固體、液體、氣體何でも皆外に逐出してしまふ、蓋し咳嗽は前の謦咳と同じやうに、わざと出すことも出來るが、普通呼吸器粘膜の刺戟に由て反對的に起るものである、尤もこれも幾分意識を以て制止することが出來るものである。

以上は健康狀態に於ける、生理的の呼吸器就中喉頭、氣管に於ける自然洗滌法の模樣を述べたのであるが、病的になれば又種々の變化が起る、先づ喉頭カタール、氣管枝カタールと云ふ病名は、素人でも普ねく知つて居る所でその部分の粘膜に焮衝が起るのである、その刺戟に由て咳嗽が出る。又分泌物が增して痰が多く出る。其他喉頭に於ては、これが爲に聲が嘶嗄て奇怪な音聲を發するが、尙ほ此の部には黴毒、結核、ヂフテリー又は癌腫など〻云ふ恐るべき病氣が取附いて、單に聲が出なくなるのみならず、遂にこれが爲に生命をも取らる〻ことがある。氣管も非常に咳嗽をしたり、殊に老人になつては、一部分が擴がつて其處に痰が溜まり、その刺戟に由て頻回咳嗽をして多量の痰を出し、往々惡臭を放つこともある。氣管から氣管枝、毛細氣管枝と云ふやうに岐分に分かれて居るが、その極細い肺の內に入這ん

で居る部分、否肺の一部分までも同じく前述の病變を呈して、氣管枝カタール、肺炎と云ふやうな危險な病症を起し、又喘息と云ふやうな奇妙な病氣もあり、なか〳〵樣々の病氣がある。此等の呼吸病の場合の洗滌法としては、醫師は好で袪痰劑を用うる。その他吸入法を行ふ。袪痰劑を處方することは無論醫師でなければ出來ない危險仕事であるが、吸入法は素人にも應用が出來る、醫師は往々これを看護者に一任するのである。吸入器は普通の醫療器械屋で賣て居る。吸入藥はその場合に應じて種々の處方を醫師がするけれども、通常の場合では全く只の水でも、その蒸氣を吸入すれば呼吸の道が潤されて粘液も溶け易く、吸入する所の空氣も蒸氣を含むで居るから刺戟が少ない、卽ち當りが良いので、一般に呼吸病に效能がある、實際心持の好いものである。厭がる小兒には、必ずしも正しく口を開かして眞正面に吸入器に向はしめずとも、蒸氣が顏の邊に吹掛かるだけでもその適度に濕潤した空氣を吸ふので相應の效があるものである。この吸入藥としては少しく消毒力のある四五十倍位の硼酸水、又は粘液を溶かす所の重曹水、或は食鹽水などは普通家庭に於て應用して差支ないものである。

次には最も大切なる肺臟の洗滌に就て述べなければならぬ。肺臟の洗滌と云ふが、元來この肺臟そのものが、實は身體全體の常設自働洗滌器械であるのである。卽ち血液が養分を運んで身體中に分配し、その不要の物を取集めて肺臟に歸つて來る、さうすると其處へ空氣を呼び込むで、卽ち吸入して、その中の酸素を取つて、その代に炭酸を出す。譬へば紙屑屋が不要の不潔なものを家々から集めて來て紙屑問屋へ錢と引替へに渡せば、これが再び淸潔なる新しい紙にすき返へされて用を爲すが如きものである。斯樣な譯であるから、肺臟の洗滌は直ちに血液の洗滌である、血液の洗滌は又身體全體の洗滌であるから、特に大切なることである。從つてこの洗滌用の空氣は淸潔なる新鮮のものでなければならぬと云ふ

ことは自ら明かな話である。扨てその新鮮なる清潔の空氣と云ふのは、目に見える如き塵埃などは無論あつてはならぬが、目に見えぬ黴菌類を含むことも少なく、尚ほ空氣以外の諸種の瓦斯類を含んでもならぬ。それで家の内に閉ぢ込めてある空氣は屋外の空氣よりは不潔である、特に多人數居住して種々の仕事をして居る室内の空氣は不潔である。第一人自ら呼出する所のものが旣に不潔なものである、不潔さまでは行かずとも、少なくとも不要の炭酸が多く、必要の酸素が少ない、その外身體の表面より種々の不潔物を出す、それに室内の塵埃や樣々の物が加はるから、終日戸を閉ぢて室内に蟄居して居るのは、自分の吐いたものを繰返し／＼飮むので、洗濯した水で又洗濯するも同然、なか／＼清潔になる譯のものではない肺臟の洗濯には是非戸外に於て呼吸しなければならぬ。特に野外に出でゝ森や林の中に於て新鮮なる空氣を深く呼吸するのが最良の肺臟洗濯法である。繰返して云ふがこの肺臟の洗濯は單に肺の洗濯に止まらず、身體內部全體の洗濯法であつて、健康の爲めには最も大切なる洗濯である。



質疑

問● 端書を以て御免可被下候、私方小兒(三歲男子)別に病氣とても無之候へども、年々頭にクサ出來樣々の塗藥致候も、餘程善くなりては又惡しく相成困難仕候所、これは俗に胎毒と申ものにて悉く直ほし候時は却て餘病を起すやう申され候が全く左樣のものに候や、又善き方法有之候はゞ御教被下度奉伺上候匆々　(山、よ)

答● 胎毒と云ふ名稱は、餘り廣過ぎて今日では何の病氣に當るとも申されませんが、所謂遺傳黴毒に由て小兒の頭にクサを生ずることは無論あります然し黴毒ならざるも、普通小兒の頭には濕疹に依

て所謂クサを生ずるのが多いのであります。仰の通りクサが比較的早く全治して、腎臟炎などを起すことがあるやうですが、これはあながち、頭のクサを癒したが爲めに起つたものとは申されません。濕疹の療治は何でもないやうで、慢性のものは頗る六ケ敷いもので、其時期その狀況に依て藥も種々適當したものを用ひなければ、癒らないのみならず、益々惡くすることが多いのでありますから、これは是非皮膚病專門の醫師に療治を乞はれんことを希望致します、適當の療治を施せば頑固の症も案外早く癒つてしまうものであります。

問● 拜啓手紙を以て伺申候私事鼻の內乾き傷を生じたる如く痛有之、餘り甚しくは無之候得共、口を動かすにも氣になり候程にて、時々困り申候斯樣の節は如何なる藥を用ひ候はゞ全治致候哉、御序を以て婦人衞生雜誌に御掲載被下候はゞ難有奉存候、先は。　（澤、ち、）

答● 塵埃や刺戟性の瓦斯を含める、乾燥した空氣を吸ふことを避け、室內には湯氣を立て、鼻には硼酸軟膏或は只ワゼリンの如き油を塗つて置いて御覽なさい。

雜報



○紅十字會の謝意

清國紅十字會にては日本赤十字社理事有賀博士の盡力を謝する爲同會理事總長沈仲禮氏より日本赤十字社長に宛て鄭重なる謝狀と乾隆御窯山水嵌磁書柱屛一方並に有賀博士には康熙翠磁花瓶一具を贈り來れり尙同社にては沈仲禮氏の依囑により同會を萬國赤十字會に締盟の手續を執るべしと云ふ

○有隣會の救護隊

清國の內亂に官軍と革命軍とを問はず一般に負傷者を救護治療する目的にて組織されたる大日本有隣會救護隊は、醫師古賀五郎氏を隊長とし、牛丸友佐氏

を事務長とし、吉澤三郎氏を看護婦隊長とし、醫員看護婦十數名にて編成し、去る八日午後三時四十分發下の關急行列車にて新橋を出發したるが、齋藤貞子以下九名の看護婦孰れも元氣好く、中には自費を以て入隊を志願せる程の熱心家もある由にて、見送の有隣會員を始め親戚故舊の人々の激勵に對し「大に働きませう」と答へたる一種悲壯の感あり、因に同救護隊用の藥品機械類其他の消耗品は一切本町の醫療機械商いわしや松本藤吉氏の寄贈に係り一日平均二百名の負傷者を治療するも優に一ヶ月を支へ得べしとなり

○製絲場工女悉く窒扶斯に罹る

長野縣諏訪郡岡谷町山一林製絲工場にては十一月廿五日一名の窒扶斯患者を出せしに繼いて廿七日一時に八十名の工女に感染し其後益々猖獗を極め四日までに百三十二名の窒扶斯患者を出し其他十一名の疑似患者あり健康なる六名にも感染し居りて同工場は去る一日より工場を閉ぢ廿六名の看護婦を傭ひて倉庫を患者收容所に充て長野縣廳よりは若林醫師出張し六名の醫師と協力して撲滅法を講じ三日に岡谷町全部を戸々に健康診斷を行ふ等混雜を極め居れり

○西洋館の便所

市内山の手方面の洋館の便所には下に瓶其他の受けの全然なくして管を土中に放射し或は下水中に流れ込める個所あり又其の受けは備へらるゝも所謂水便所は一回の便に三升以上の水を注ぎて流し遣るものなれば貯まりし便は水分のみ多く肥料として役に立たざれば假令契約しても喜んで汲み取るものなく多くは溢れて流れ出し居る個所多しとの事に一方近頃傳染病の統計に最も多かるべき本所深川邊には漸次減少しつゝあるに却て山手邊は漸次增加の傾向あるより斯くては充分に取締るの必要ありと警視廳第三部にては目下此の方面の洋館便所の構造に就いて實地調査中なり

○恐るべき狂犬

先月七日の夕刻府下巣鴨字傳中に現はれ出たる一匹

の野犬は、板橋より王子署管内にかけて荒れ廻り都合六十名の人を咬みたる由にて、當局者の話に據れば、これまで一匹にて二十四五人まで咬ついた例はあるが、今度の如き狂犬は實に稀有のものであると。

○水道と死亡率

大都會に水道を布設した其前後の死亡率を比較して見るに實に左の如くである、以て如何に水が生命に關係することの重大なるものであるかを知ることが出來ようと思ふ。

	布設前後	人口千に對する死亡比例平均
東京	前七年間（自二十五年至三十一年）	二一・一七
	後同年間（自三十二年至三十八年）	一八・三六
	其後（自三十九年至四十年）	一六・五九
大阪	前七年間（自二十二年至二十八年）	二七・二五
	後同期間（自二十九年至三十五年）	二一・九六
	其後（自三十六年至四十年）	二〇・八九
横濱	前九年間（自十二年至二十年）	三二・一二
	後同期間（二十一年至二十九年）	一八・三二
	其後（自三十年至四十年）	一三・五四
神戸	前六年間（自二十七年至三十二年）	二九・八一
	後同期間（自三十三年至三十八年）	二五・〇五
	其後（自三十九年至四十年）	二二・三八
長崎	前七年間（自十八年至二十四年）	二六・一六
	後同期間（自二十五年至三十一年）	一五・七二
	其後（自三十二年至四十年）	一五・一八
廣島	前七年間（自二十五年至三十一年）	二一・八五
	後同期間（自三十二年至三十八年）	一九・四二
	其後（自三十九年至四十年）	一七・一九
函館	前五年間（自十八年至二十二年）	二八・五三
	後同期間（自二十三年至二十七年）	二六・九五
	其後（自二十八年至四十年）	二〇・五四

○産婆試驗成績

千葉縣に於て施行されたる本年度第二回産婆試驗問題及びその成績は左の如し

産婆試驗問題

第一問　クレーデ氏法とは如何且此法を行ふ場合を問ふ

第二問　經產婦と未產婦との區別

第三問　妊娠中胎兒死亡したるとき母體に如何なる徵候を來すや

第四問　褥婦の尿閉の原因及其處置

第五問　陣痛過劇に依て起る障碍を記し且つ陣痛過劇の處置如何

第六問　卵膜及臍帶の如何なる異常は分娩時如何なる異常を生ずるか

實地試驗は模型及實物に付き施行せり

同試驗成績

出願人員	實地試驗のみの出願	試驗完了人員	學說合格證書交付人員	及第人員
七二	一五	六〇	一	三〇

及第者年齡別

二十歳未滿	二十歳以上二十五歳未滿	二十五歳以上三十歳未滿	三十歳以上三十五歳未滿	三十五歳以上	合計
九	一三	三	五	一	三〇

○白十字會の組織

豫て都下各有志に依り計畫せられ小規模ながら著々實行せられつゝありし結核豫防及び其療養を主とする白十字會の事業は今回彌々社團法人の組織となり主務大臣より許可となりたれば十四日神田青年會館に協議會を開き來年一月廿五日設立總會を開催する事、總裁及び會長を定むる事、事務所を當分の内本郷二の三六林止氏方に置く事等を議定し役員を選定せり

右に就き社團法人白十字會は如何なる方法と手段に依りて結核豫防及其治療の實を擧げんとするかを聞くに豫防の一法としては現に發行しつゝある白十字と云ふ雜誌に諸大家の懇切なる豫防法等を掲載し普く一般社會に實費を以て配布すると同時に時々結核に關する通俗講演會を開き中流以下の人々に結核の如何に恐るべきかを自覺せしむると共に其豫防法等を知らしむるに努め療養の方法としては市内各區及郡部の各所に開業する各醫師に囑して各一日三名を限り治療せしむる外三十名を限度として薄資の重患者を相州七里ケ濱なる惠風園へ實費を以て入院せしむる事等の規定あり目下右惠風園には廿九名の患者入院中とかにて其資力に應じ一日四十錢より一圓までの實費にて平等なる食事寢具等を給し治療しつゝあり又各市内に囑しある治療醫員は神田區に西鎮氏以下十四名、牛込區に淺見三慶氏以下十名、麴町區に堀川彌太郎氏以下一名、赤阪區に赤阪善次氏以下一名、麻布區に水川龍太郎氏以下二名、芝區に廣川松太郎氏以下五名、京橋區に和田劍之助氏以下二名、日本橋區に神山清道氏以下四名、淺草區に長田重雄氏以下五名、下谷區に脇屋正人氏以下三名、本所區に田口紫矩氏以下廿二名、小石川區に神村兼亮氏以下五名、本郷區に林止氏以下十二名、四谷區に森田

八十郎氏、深川區に小關虎三郎氏以下三名ある外北豐島、南葛飾、豐多摩、西多摩等各郡部にも夫れ〳〵囑托醫員ありて區役所、村役場或は會員の紹介ある者を限り治療する設備あり、猶近き將來に於て相當の地を卜して治療院を建設し細民患者を收容治療せんとする計畫中なりと

○實布的利亞豫防施療

麹町區大手町一丁目大日本私立衞生會は昨年來府下の貧困者に對し無料を以て實布的利亞血淸施療を實行し居たりしが今回囑托醫五十九名を增加し以て一層之が普及を計り且つ同會支會所在地各府縣へも其施療の範圍を擴張することゝなしたる由。

○男の數と女の數

總ての歐洲各國に於て女子の數は男子に超過するに反して東洋に於ては男子の數女子の數に超過す東西洋の中間に在るルマニヤ、セルビヤブルガリヤ及び希臘に於ては男女の數相伯仲するは奇とするに足るトルコに於ては其數不明なるも男子の數超過するは疑なきが如し獨逸に於ては年々六萬人の男兒女兒よりも多く出生す然るにも拘らず實際女子の數は男子に超過す、唯だ近年は其女子の超過率は漸く低減せり普國に就て云へば前年には、男子一九、八四七、七二五に對し女子二〇、三一七、四九四なり而して五年間に男子の增加數は一、四四八、七九五、女子の增加數一、四二三、一六〇にして從て男子の增加數は女子に比して二五、六三五人多し又千九百年乃至千九百五年の間に男子は女子よりも三二、〇〇〇人多く增加せり斯く男子の數は增加し行くも全數に於ては尙ほ女子に比して四六九、七六九人少なし但し十年以前の差は五二九、六〇一にてありしなり、若し十年以降の狀態を以て男子の數增加せば今後三十年にして男女の數平均すべしと云ふ

○人種固有の體臭

ドクトルアッチリオ、クレメンテと云ふ伊太利の研究家が人種固有の體臭と云ふ題目に就て研究したが、その話に依ると、最も有名で且最も特徴ある臭で如

何に鼻の鈍い人にも明かに分かるのは「ネーゲル」(黑奴)の體臭で、大抵の人はこれを山羊の臭に似て居ると云ふ、蒙古人、馬來人、その合の子も餘りこれに劣らぬひどい臭がする、所が此等の人種に云はすると、歐羅巴人は頗る不快な死人の臭がするさうである。又赤髮の者は一種特有の臭があつて金髮婦人等の云ふ所に依れば黑髮の者は菫菜のやうな香があるが、赤髮の者は龍涎香のやうな匂がすると云ふことである。この種々なる體臭の原因は、又それだけ樣々であつて、人種及び大民族に依ては、此處に榮養習慣に大差あることは勿論であるが、倘ほ消化器の機能にも差があり、これに次で皮膚の汗腺及び脂腺の働の差異もあり、その分泌物も亦種々の氣候風土に由て左右さるゝ所の黴菌に依て種々の臭を放つものに變化されるのである。(ウムシヤウ)

評者曰、西洋人には蒙古人種の體臭は黑奴の如く山羊臭いかも知れぬ、又實際糠味噌臭いかも知れぬ、然し我儕日本人の鼻には西洋人は獸臭い、尠くとも牛糞臭いことは事實である

○露國の女車掌

露遞相ルチロフ氏は、鐵道列車の車掌には、男子に代ふるに女子を以てすべしと云ふ議案を内閣會議に提出したそうである、その理由とする所は、從來の經驗に據て見ると、餘り困難でない仕事なれば、女子の方が男子よりも責任を重んずるのみならず、下級の鐵道從業員に屢〻見る如く泥醉して過を出來すと云ふやうなことは無いからであると云ふ。内閣會議でどうなるか分からぬが、これが議會に提出されることになれば、大に世の注意を惹くであらうとのこと。

○獨逸婦人の大帽子

獨逸の伯林では、今も婦人の大形帽子が流行して、劇場とかその他雜蹈の場所では往々これが爲めに傍のものが怪我をすることがあるそうである。先達も何か群集を制して居る警官が顏に大負傷をさせられたので、警視總監のヤーゴー氏は、斷然この大帽子

を禁じ、若しこれを犯す者は十五日以上二年以下の重禁錮に處すると云ふことに決した、所が婦人連の激昂がなか〳〵すさまじいと云ふことである。

○維也納の流行語

墺太利の都ウイーンには、富豪の死だ時に、その遺産の病院基金として寄附されたものが六百萬クローネンもあるが、段々不足になつて來るので、近頃は『神よロスチャイルドを死せしめよ』と云ふ惡い流行語が始まつたそうである。このロスチャイルドと云ふは有名な富豪の一族であるので、若しロスチャイルド家で誰か死去すれば、又その遺産の幾分は病院基金に寄附されるに相違ないから、それで斯樣な咒文の如き流行語が出來たのであると云ふ。貧困病者は實に憐むべきであるが、富豪の身になつても亦氣の毒なものである。

廣告

○本會例會

本會に於ては去る十二月二日午後十二時半より神田區一ッ橋通り共立女子職業學校大講堂に於て例會を開き、役員及び會員竝に職業學校生徒百餘名出席當日の講師醫學士宇都野研氏は、數葉の圖表を掲げ、小兒の哺育の最も注意すべき時期、天然榮養竝びに人工榮養上常に服膺すべき育兒法の原則を說き、終りに牛乳消毒罎の使用法及びその掃除法を述べ、尚は牛乳に混用すべき引割麥、穀粉の標本を示しその應用に就て懇切に說明せられたるが、何れも育兒實地上直接に應用し得べき簡易の事柄にして而かも極めて大切の事のみなりし故、心ある聽衆は大に滿足の意を表せり、閉會後、別室に於て茶菓を供し、暫く歡談の後散會せるは二時過なりき

○新潟支會例會

新潟支會は去十一月十九日午後一時より同市師範學

校附屬小學校に於て婦人教育會と聯合の上例會を開催し、出席百二十餘名、當日の講師及び演題は左の如し

一、神經衰弱症に就て　醫學士　長谷川寛治君

一、救濟事業下婢教授に就て　新潟尋常高等小學校長　根津音七君

右終つて餘興に移り、烏居玉心女史の筑紫琵琶等ありて非常の盛會なりき

○山形支會例會

山形支會にては去る九日午後一時より女子師範學校内に例會を開き橋爪醫學士の妊婦の衞生てふ題にて講話ありたり折柄師走の寒空にもかゝはらず支會長馬淵令夫人を始め二十餘名の出席者あり閉會せしは四時頃なりき。

○本會入會者

◎事務所申込

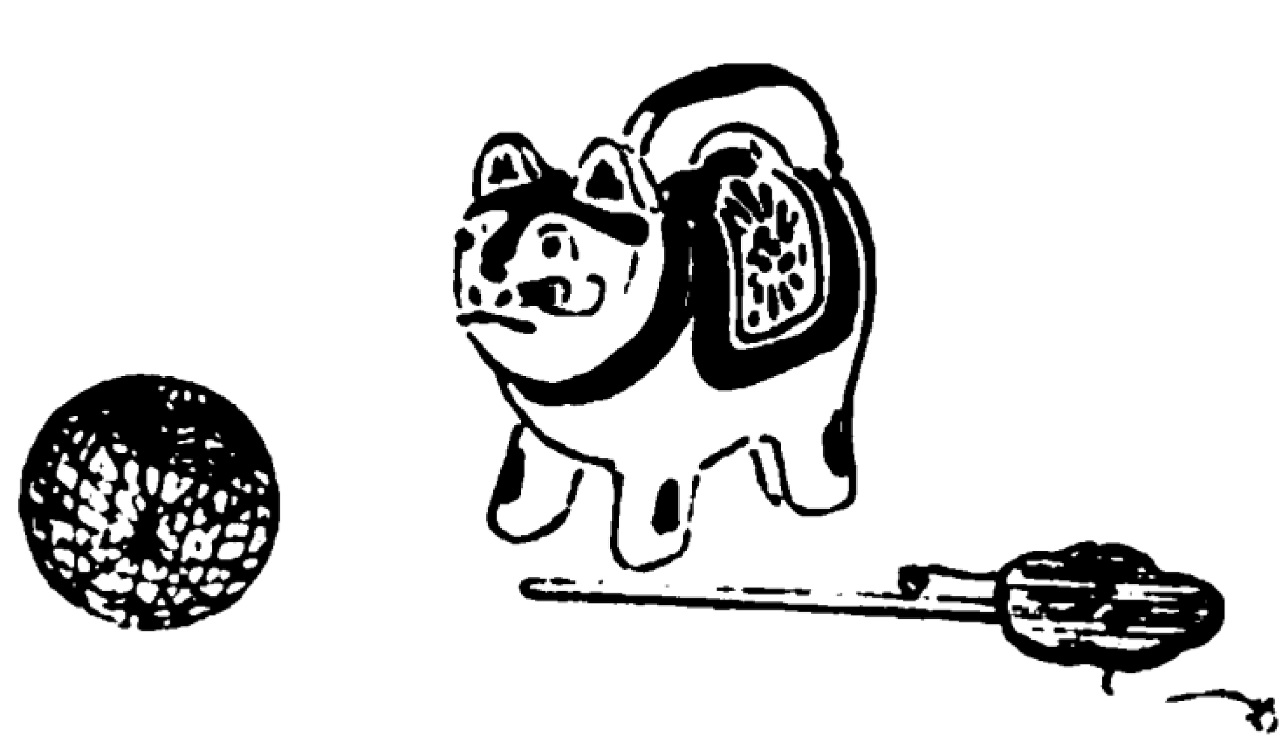
●神田區表猿樂町一八　通常會員　伊藤きん子

●京都府天田郡上夜久野村　通常會員　村田いよ子

○轉居

●麴町區一番町一二へ　贊成員　佐藤達雄

●本郷區湯島新花町九五へ　贊成員　牧瀬雄一



前髪心の覇王 美人印ヘーヤロール

弊店製造の特許ヘーヤロールは原料を遠く濠洲に仰ぎ新歸朝者美容術界の明星たる岡崎エン子女史が母國への土産として持ち來りしものに大改良を加へ衛生と經濟とを兼備したる逸品なる事貴婦人界既に定評あり

ヘーヤロール前髪心壹個の目方

壹尺	中	貳匁四分
壹尺貳寸	大	三匁四分
壹尺五寸	極大	五匁五分



コーキリン

肺結核唯一の治療藥たる結列阿骨篤の副作用を除き然も其効果を完全にせしはスパイヤー博士發見の本劑なり

説明書郵呈

プノイミン

鈴木博士發見の本品は結核腺病特に神經衰弱症の最良强壯劑として現時治療界を風靡する有機性燐劑なり

東京市日本橋區室町三丁目　三共合資會社

タカヂアスターゼ

高峰博士發見の本劑は効力顯著なる胃腸新藥なり類似品あり注意

グリコナール錠

北里博士指導佐伯矩氏創製の本品は衰弱者肺病其他慢性諸症に卓効ある滋養新劑なり

説明書郵呈

東京市日本橋區室町三丁目　三共合資會社

●前金切レノ御方ハ何卒此際御送金被下度願上候
振替口座東京一〇六〇〇番

●本誌ニハ各位ノ御便宜ヲ謀リ振替拂込用紙ヲ添置候

明治四十四年十二月

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一冊 定價金貳拾錢 郵稅壹錢
三冊（三ヶ月分）前金郵稅共 金四拾五錢
十二冊（一ヶ年分）前金郵稅共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行 一行二十三字
壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行二十五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

明治四十四年十二月十七日印刷
明治四十四年十二月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區駒込追分町二十九番地 莊司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 今井甚太郎
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京本郷區龍岡町 吐鳳堂
東京市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鎗屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市本町三丁目 丸善書店

新春第一日の新裝を見よ

新婦人

第貳年第壹號　定價　一册十二錢八厘　郵税二錢五厘
六册前金郵税共壹圓四十七錢

新年大附錄 **模範かるた** 新鑄活字を用ひたる百人一首にして讀の部百枚取りの部百枚……川村清雄筆

繪畫寫眞版概目

鼠啼き　濃婉人目を眩し瑞祥堂に充つ（油繪極彩色）……川村清雄筆

鶯語　閨闥として媚めかしく溫柔境裡春色深し（石版極彩色）……橋口五葉筆

誹俳三昧（木版）……齋藤松洲筆

春の女（木版）……鰭崎英朋筆

嬌聲相鬩ぐ、名媛相肩摩し美姬相轂擊す……コロタイプ寫眞

東宮妃殿下　小松宮頼子殿下●二條公爵令孃　馬上の江木欣々女史●比志島中將夫人令孃●福島浪藏氏令孃●鎌倉吉水智惠子孃●大村久雄氏●山縣總監夫人●宮崎光太郎氏夫人●岡田治衞武氏令息夫人●篠田多賀子孃●谷川雪子孃　新女醫　岸本露子女史　音羽雁子孃●伊藤子爵令嗣夫人　鈴木裁縫店主　女優　糸子孃外百圖

男は可愛いもの……田村とし子

女子の見たる男子の性格……平塚明子

松は瑞木か將た凶木か（本多博士）江戸の春（戸川殘花）松竹梅（白井博士）江戸の正月と女（岡野知十）美しい初春の女（尾島菊子）新年の子供の衞生（杉田鶴子）女の歩き振（薄田斬雲）禮服改良論（森律子）生殖者としての女（田中敎論）掛聲なしの長唄（鰭崎英朋）其外數十名家の新春所感●●奇聲人を驚かす

面目一新の **家庭日誌** 一月分　溫度表晴雨表獻立表來客控篩九星循暦附

見本　郵劵卅錢

賣捌所は全國著名の書林雜誌店

發行所　東京市本郷區龍岡町　東京三〇五八番　聚精堂　電話下谷一六七二番　電話下谷四〇七九番